

伊賀市 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書 在宅介護実態調査報告書 結果概要

➤（報告書を現行計画の「伊賀市の高齢者を取り巻く重点課題」〔24頁-25頁〕にしたがい分類）

2020(令和2)年8月

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査・在宅介護実態調査 実施概要

1 調査の目的

老人福祉法第20条の8の規定等に基づく高齢者保健福祉計画ならびに介護保険法第117条の規定に基づく介護保険事業計画を『伊賀市第6次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画〔計画期間：2021（令和3）年～2023（令和5）年度〕』として一体的に策定する上で、高齢者の生活状況や活動状況などの必要な基礎資料を得るとともに、超高齢社会に対する意識や介護保険サービスに対する意向などの実態を把握することを目的としています。

2 調査対象（対象者人口：2019（令和元）年9月末現在）

調査名	対象者	対象者人口	標本数（対象者比率）
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	伊賀市在住の65歳以上の要介護認定のない人及び要支援1・2の人から無作為抽出	25,213人	5,000人（19.8%）
在宅介護実態調査	伊賀市在住の65歳以上の要支援・要介護認定者のうち居宅で暮らしている人から無作為抽出（A票：調査員が認定調査の概況調査等と並行して記入する項目、B票：主な介護者またはご本人に回答いただく項目）	4,938人	600人（12.2%）
合 計		30,151人	5,600人

3 調査期間

調査名	期 間
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2020（令和2）年2月7日～2020（令和2）年2月21日
在宅介護実態調査	2019（令和元）年11月21日～2020（令和2）年4月21日

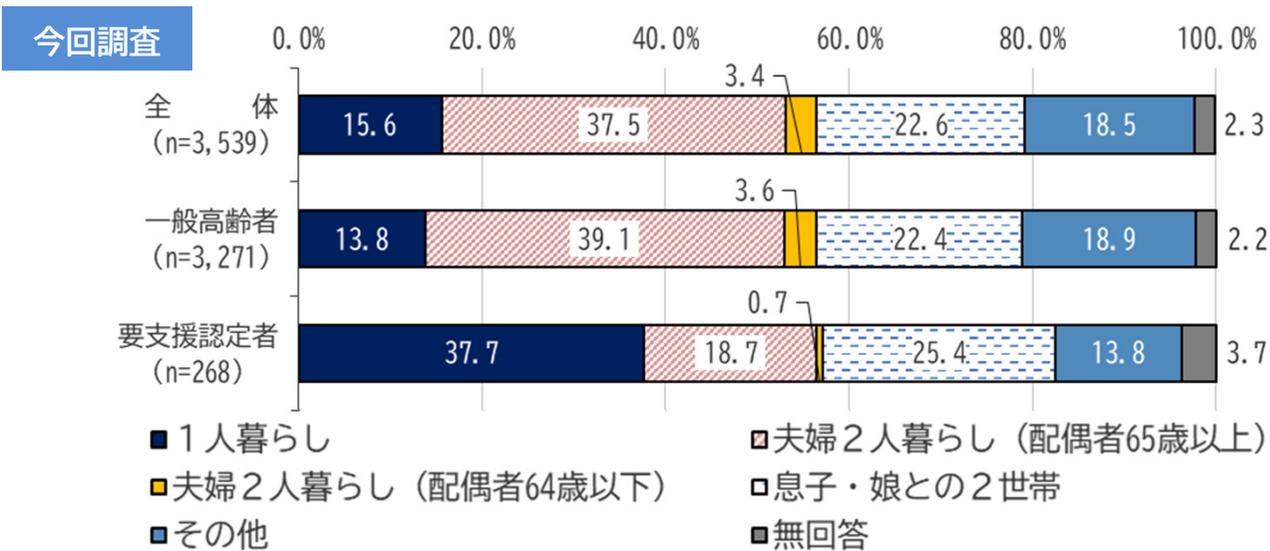
4 調査方法

調査名	調査方法
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	介護保険システムから該当者を無作為抽出し、郵送による配布・回収（自記式）
在宅介護実態調査	認定調査員による聞き取り

5 回収結果

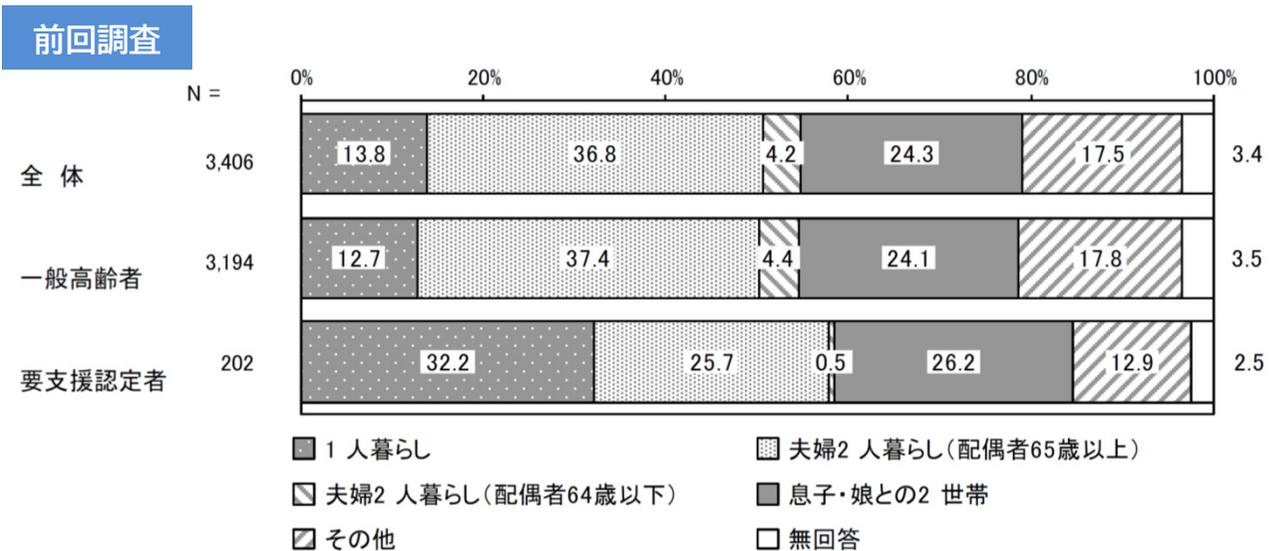
調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	5,000通	3,539通	70.8%
在宅介護実態調査	600通	462通	76.9%
合 計	5,600通	4,001通	—

(ニーズ調査) 回答者の個人属性 1 世帯割合



〔分析〕

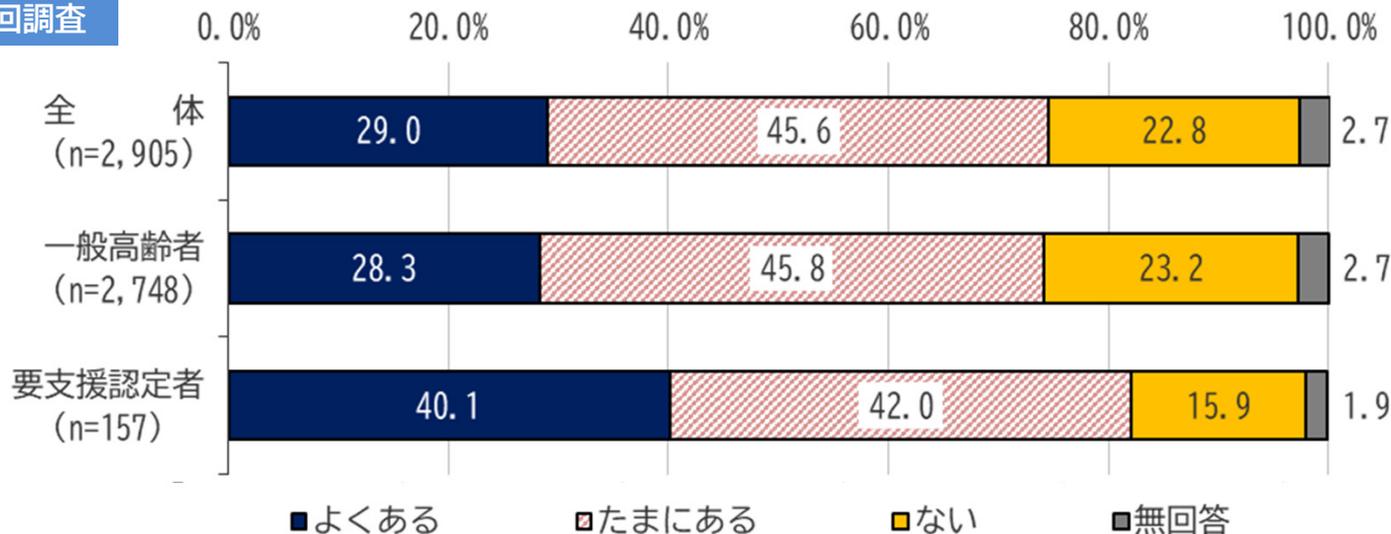
- 一般高齢者では、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が39.1%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」の割合が22.4%、「その他」の割合が18.9%となっています。
- 要支援認定者では、「1人暮らし」の割合が37.7%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」の割合が25.4%、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が18.7%となっています。
- 認定の有無別でみると、要支援認定者に比べ、一般高齢者で「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「1人暮らし」の割合が高くなっています。



(ニーズ調査) 回答者の個人属性 2

日中独居世帯割合（家族構成が夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上、あるいは配偶者64歳以下）、息子・娘との2世帯、その他の人）

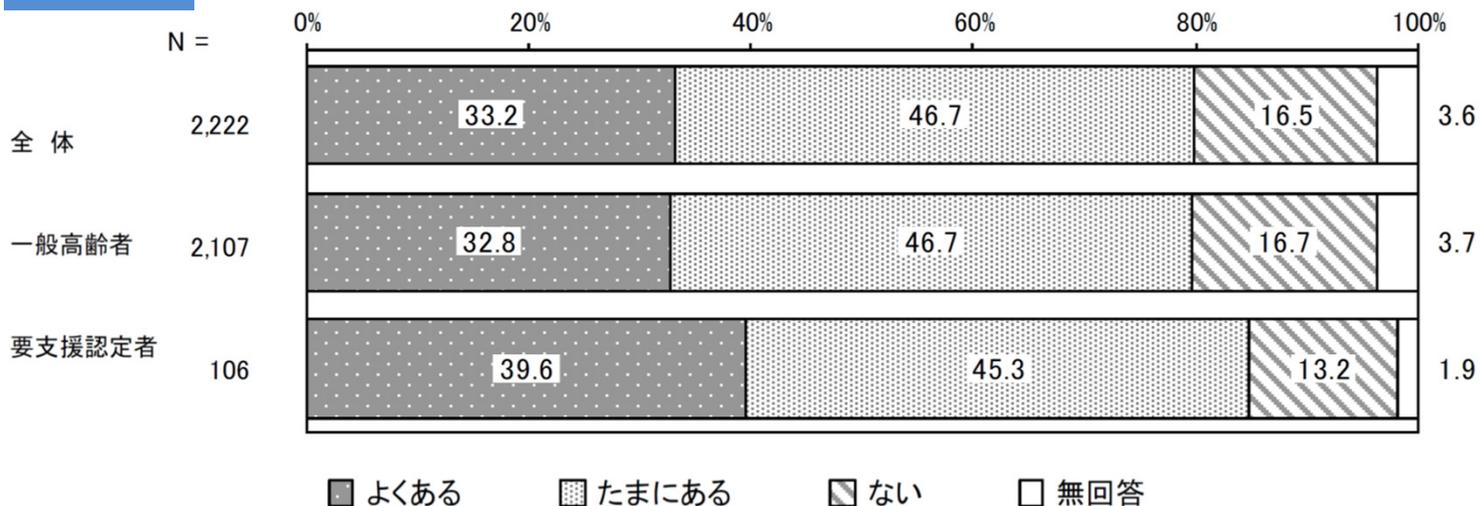
今回調査



〔分析〕

- 一般高齢者では、「たまにある」の割合が45.8%と最も高く、次いで「よくある」の割合が28.3%、「ない」の割合が23.2%となっています。前回調査と比較して「よくある」と回答した割合は微減し、「ない」と回答した割合は増加しています。
- 要支援認定者では、「たまにある」の割合が42.0%と最も高く、次いで「よくある」の割合が40.1%、「ない」の割合が15.9%となっています。

前回調査



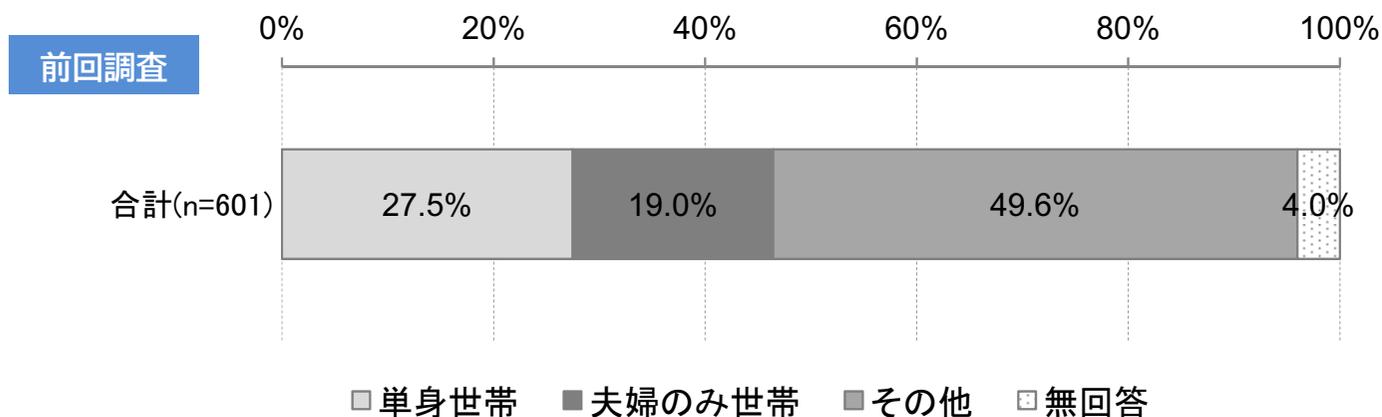
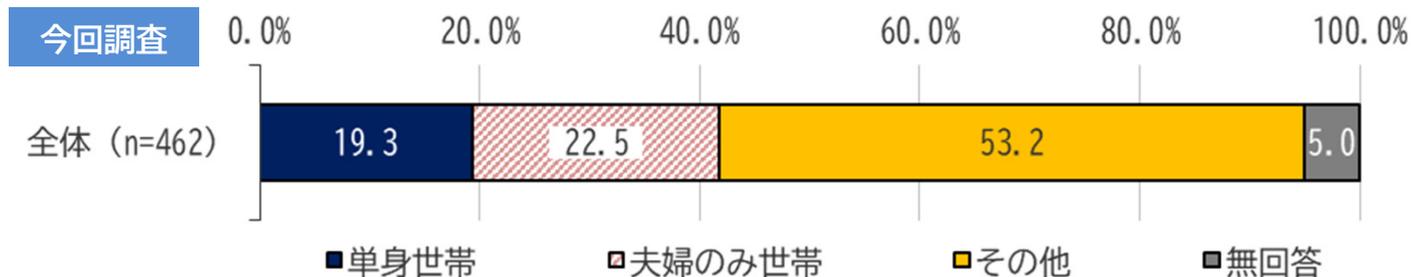
認定の有無別で見ると、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「よくある」の割合が高くなっています。

(在宅介護実態調査) 回答者の個人属性 1

認定者の世帯割合

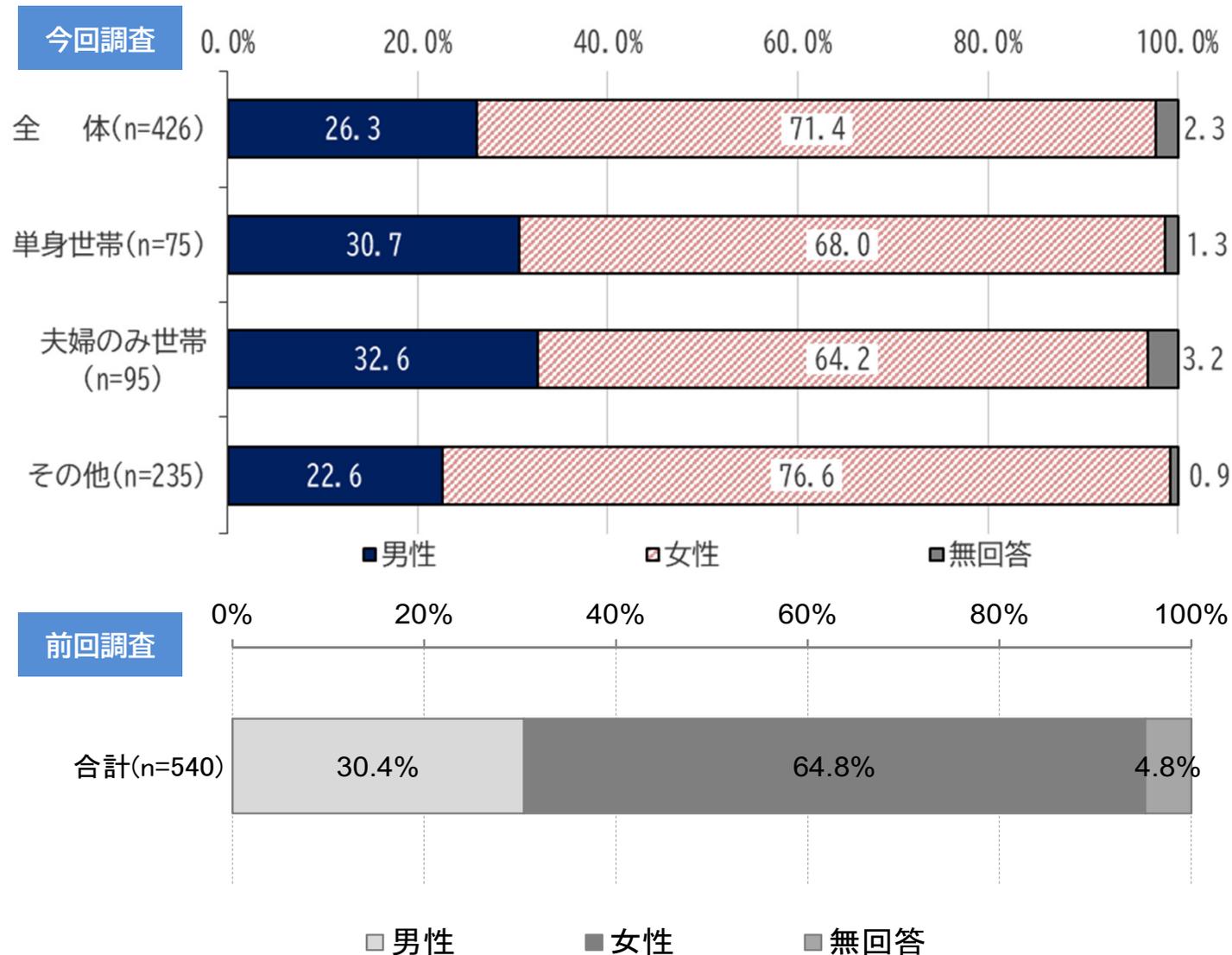
[分析]

□ 「その他」の割合が53.2%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」の割合が22.5%、「単身世帯」の割合が19.3%となっています。前回調査と比較して、「単身世帯」の割合は8ポイントほど減少しています。



(在宅介護実態調査) 回答者の個人属性 2

介護者の性別割合

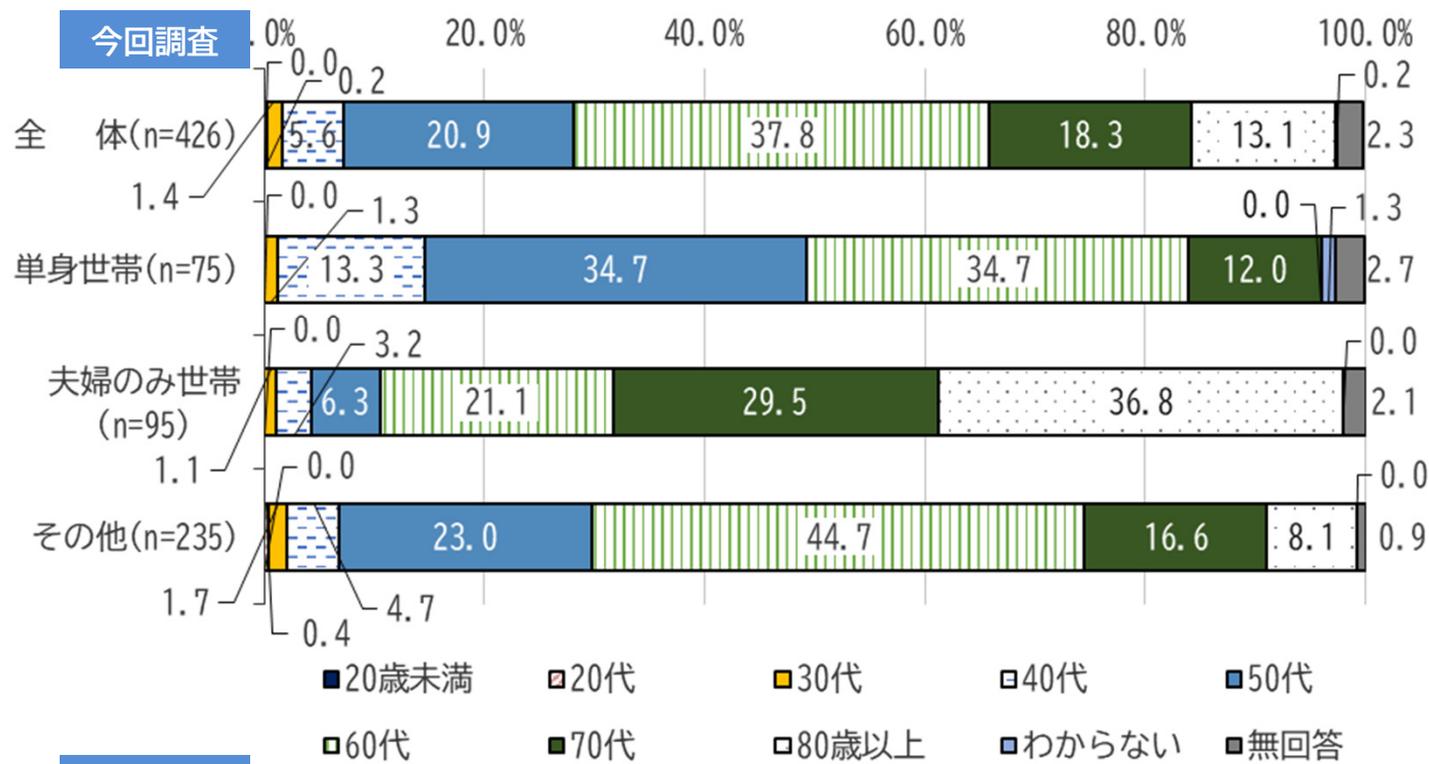


〔分析〕

- 介護者の性別は「男性」の割合が26.3%、「女性」の割合が71.4%となっています。前回調査と比較して、男性の割合が微減しています。
- 介護者の年齢別は、全体では、「60代」の割合が37.8%と最も高く、次いで「50代」の割合が20.9%、「70代」の割合が18.3%となっています。
- 「単身世帯」では「50代」「60代」がともに3割強で最も高くなっています。「夫婦のみ世帯」では「80歳以上」が4割弱で最も高く、これに「70代」が3割弱で続いており、介護者の高齢化が際立っています。「その他」では「60代」が4割強で最も高くなっています。

(在宅介護実態調査) 回答者の個人属性 3

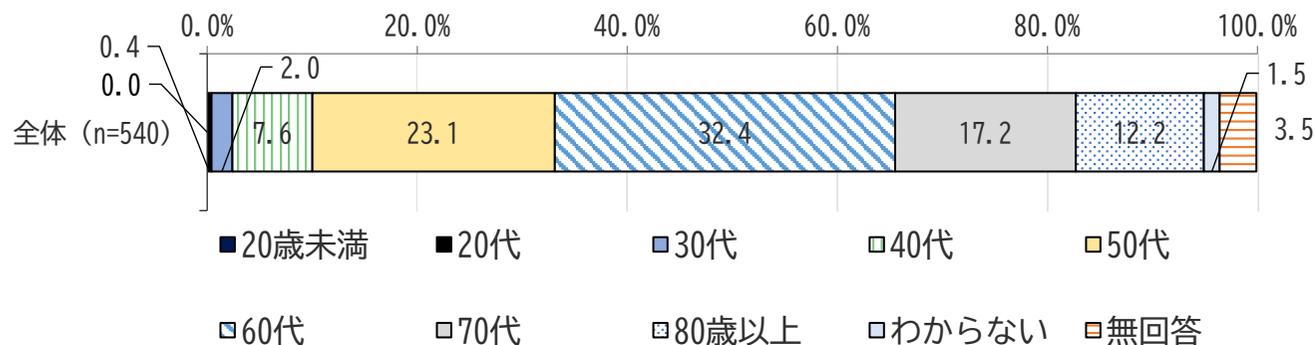
介護者の年齢別割合



[分析]

- 介護者の年齢別は、全体では、「60代」の割合が37.8%と最も高く、次いで「50代」の割合が20.9%、「70代」の割合が18.3%となっています。
- 「単身世帯」では「50代」「60代」がともに3割強で最も高くなっています。「夫婦のみ世帯」では「80歳以上」が4割弱で最も高く、これに「70代」が3割弱で続いており、介護者の高齢化が際立っています。「その他」では「60代」が4割強で最も高くなっています。

前回調査



相談窓口について

(ニーズ) 問52 家族や友人・知人以外で、何かあったときにあなたが相談する人(いくつでも)

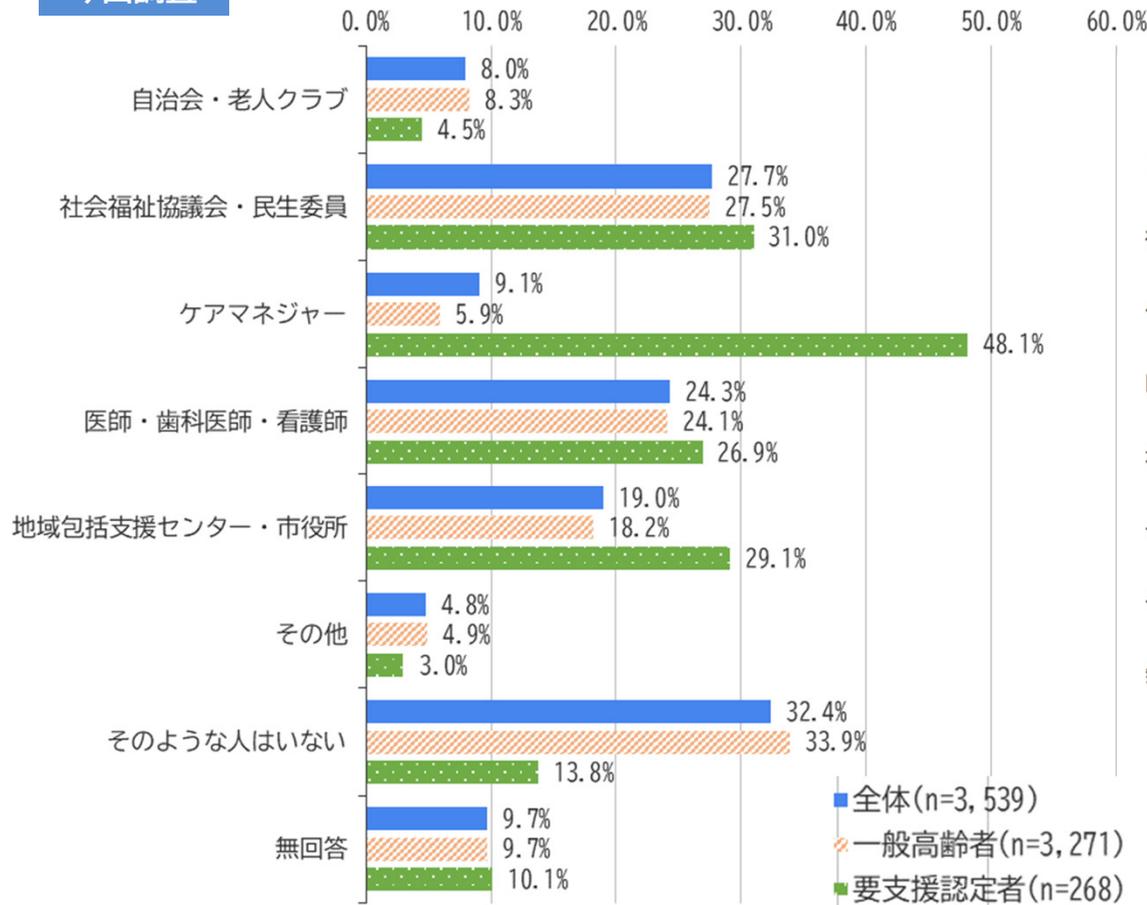
[分析]

- 家族や友人・知人以外で、何かあったときにあなたが相談する人について、「そのような人はいない」が3割強
- 前回調査と比較して、要支援認定者の「ケアマネジャー」の割合が増加しています
- 上記の状況にも関わらず、相談窓口が分からないという意見が複数あり。

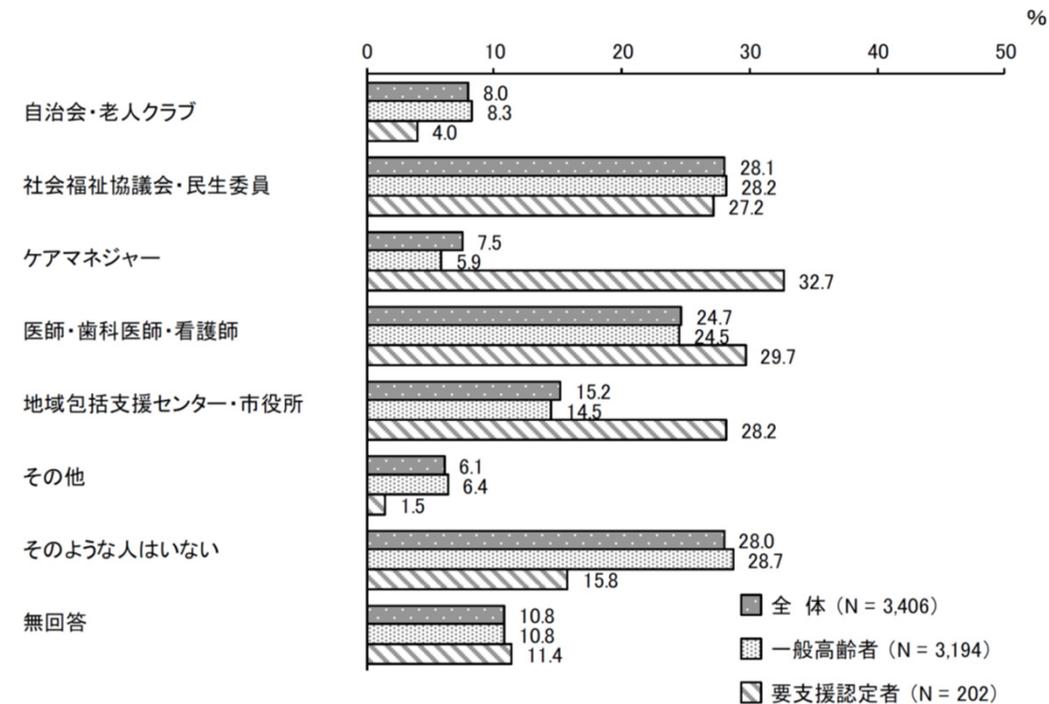
[考察]

- 今後相談窓口の周知が一層必要

今回調査



前回調査

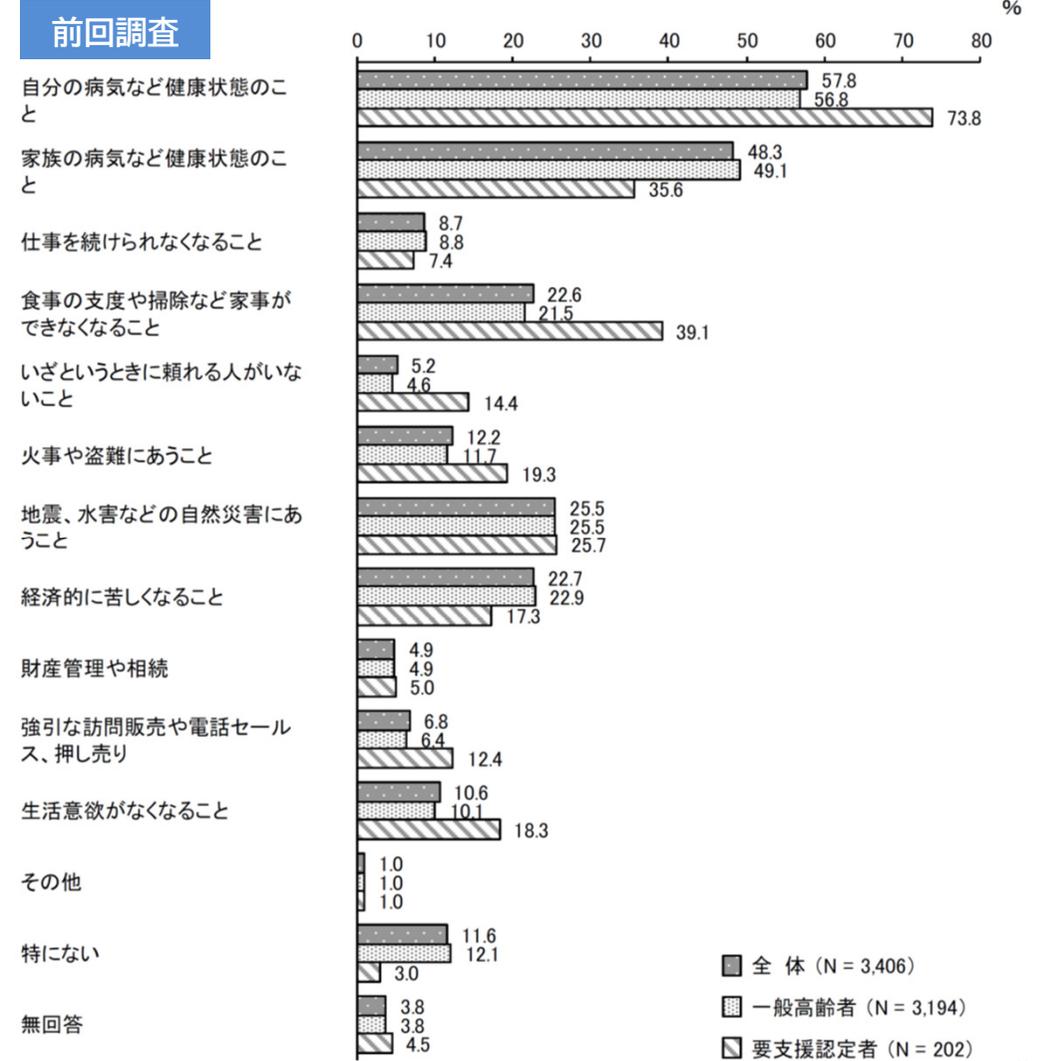
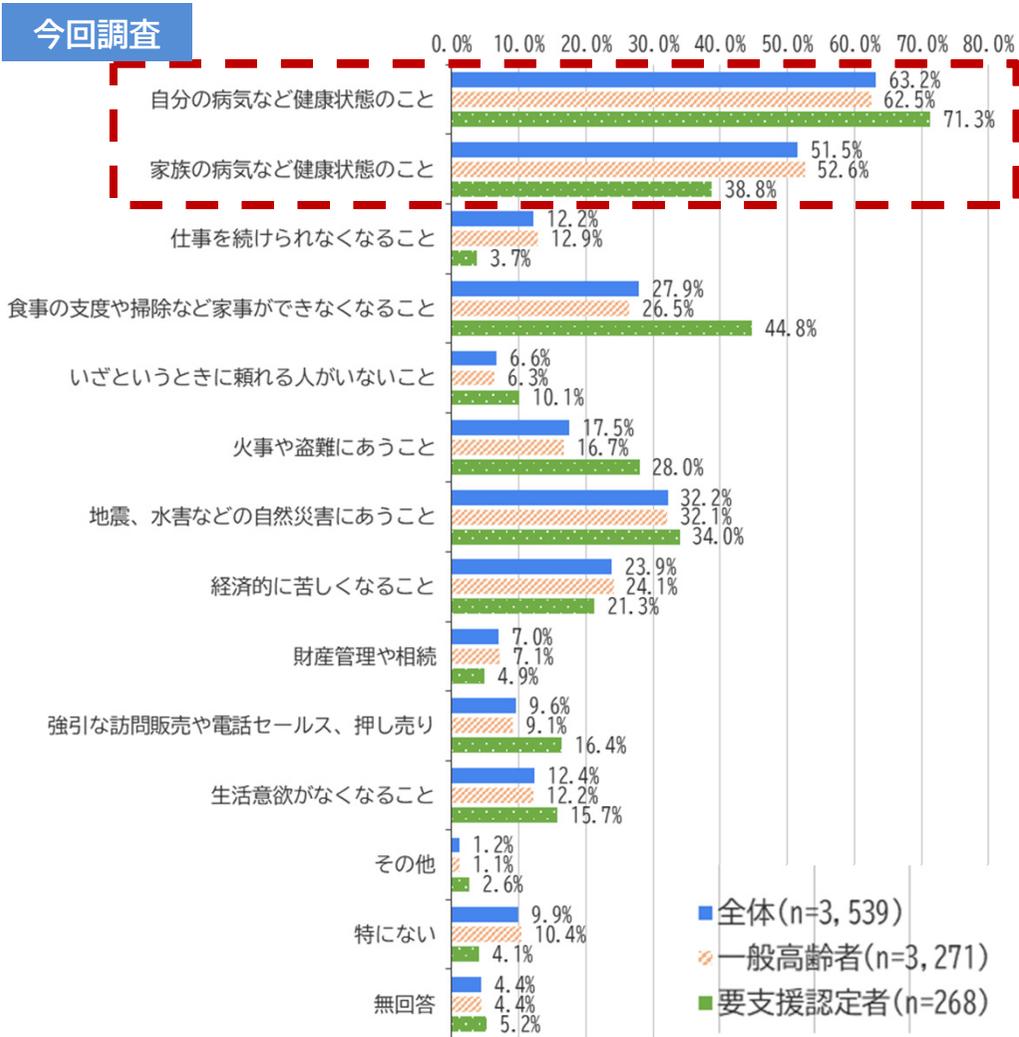


健康への意識 1

(ニーズ) 問51 日ごろの生活で不安に思っていることはありますか (いくつでも)

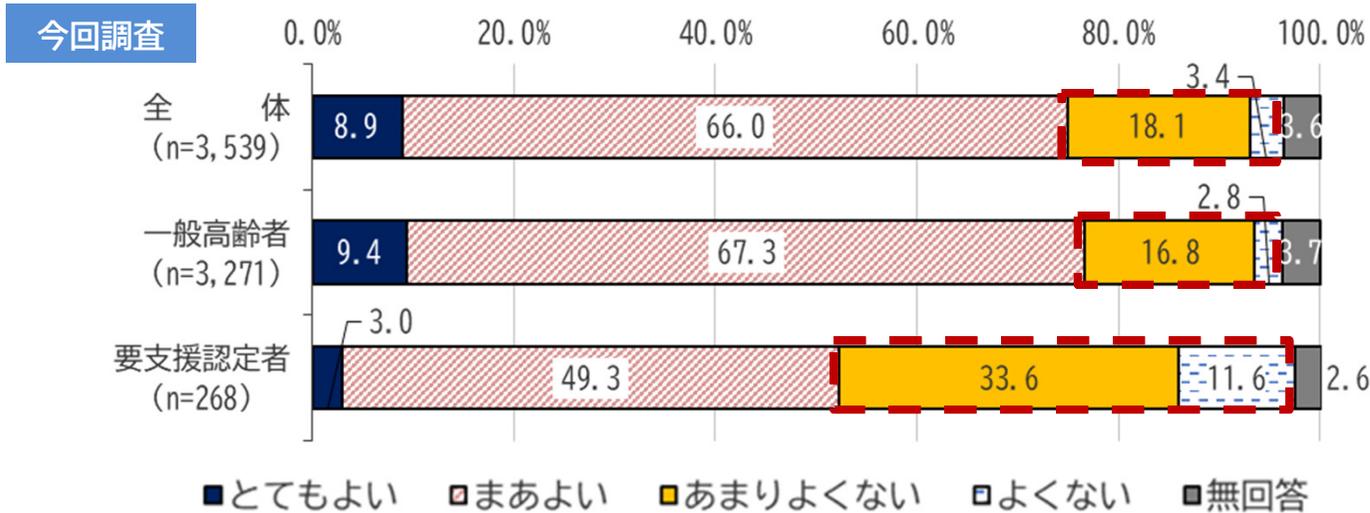
[分析]

- 一般高齢者も要支援認定者も、自分や家族の健康について不安を感じている
- 前回調査と比較して、自分や家族の健康について不安が増加している



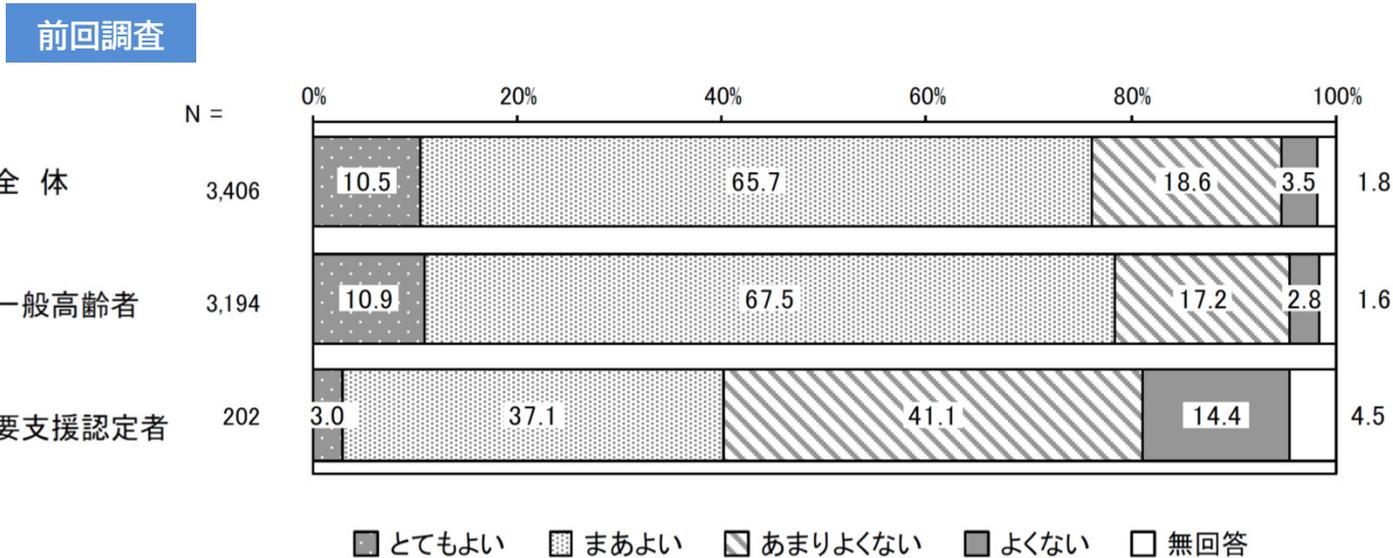
健康への意識 2

(ニーズ) 問56 現在のあなたの健康状態はいかがですか (一つを選択)



〔分析〕

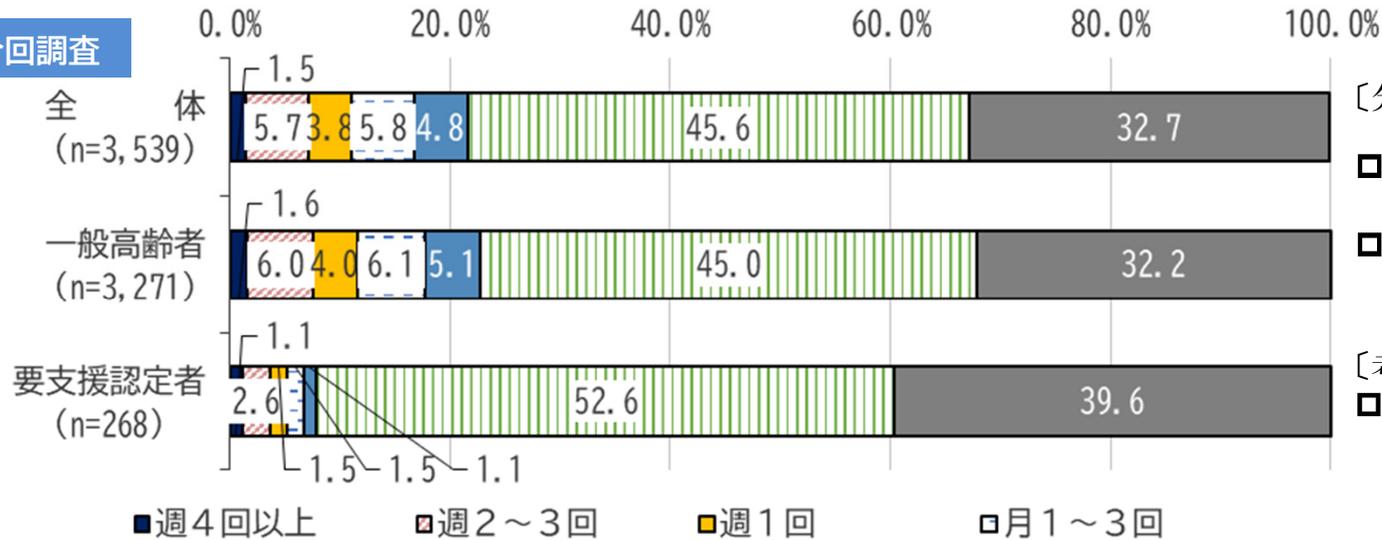
- 主観的健康観をみると、要支援認定者では「あまりよくない」「よくない」の割合が4割強
- 前回調査と比較して、要支援認定者の「あまりよくない」「よくない」の割合は減少



健康づくり 1

(ニーズ) 問43 ②スポーツ関係のグループやクラブにどのくらいの頻度で参加していますか。

今回調査



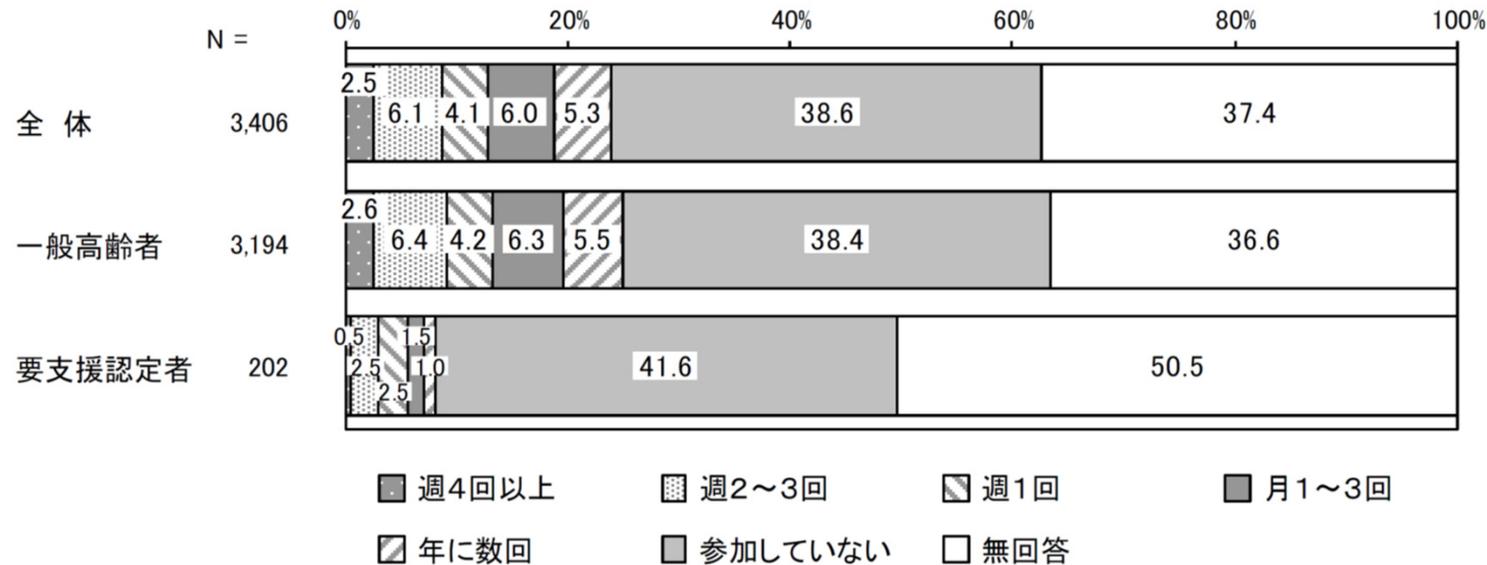
[分析]

- スポーツクラブに参加していない人がおよそ5割弱
- 前回調査と比較して、「参加していない」の割合が増加

[考察]

- 身体を動かすような取組が必要

前回調査

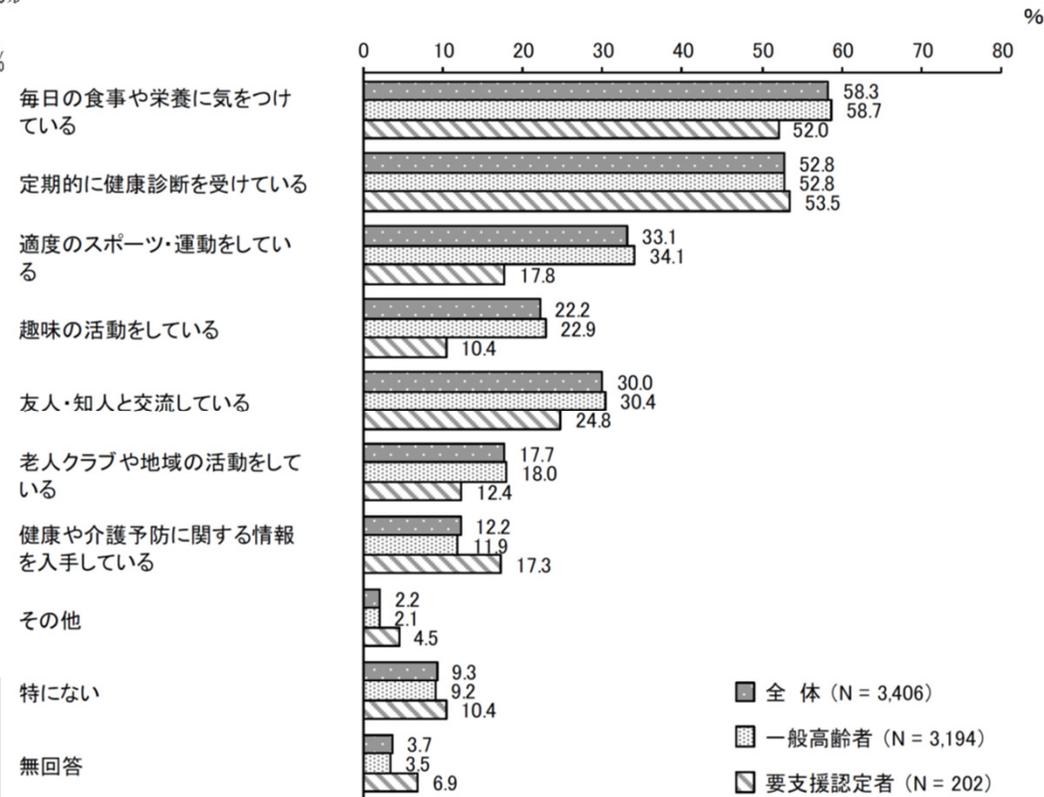
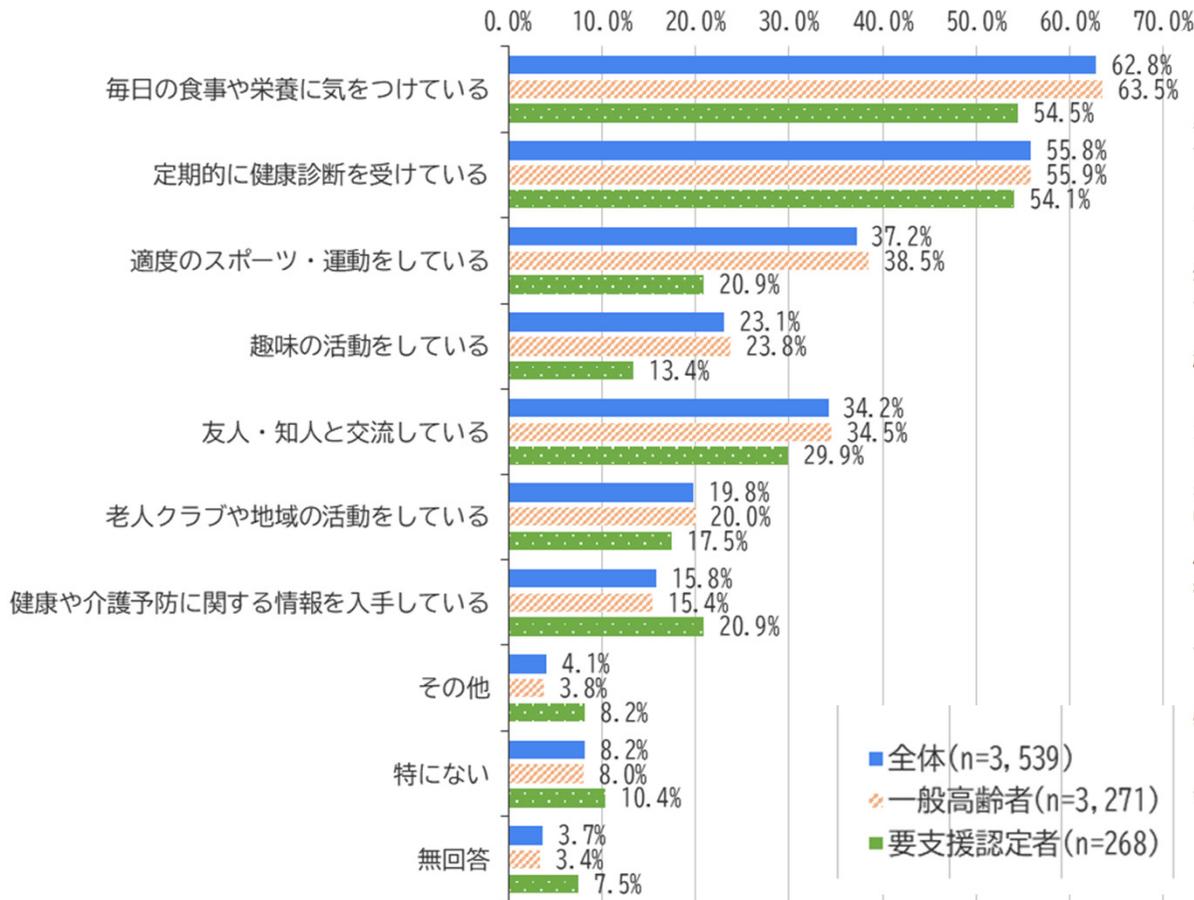


健康づくり 2

(ニーズ) 問64 介護予防（介護が必要な状態にならないようにすること）のために、日ごろから取り組んでいることはありますか（いくつでも）

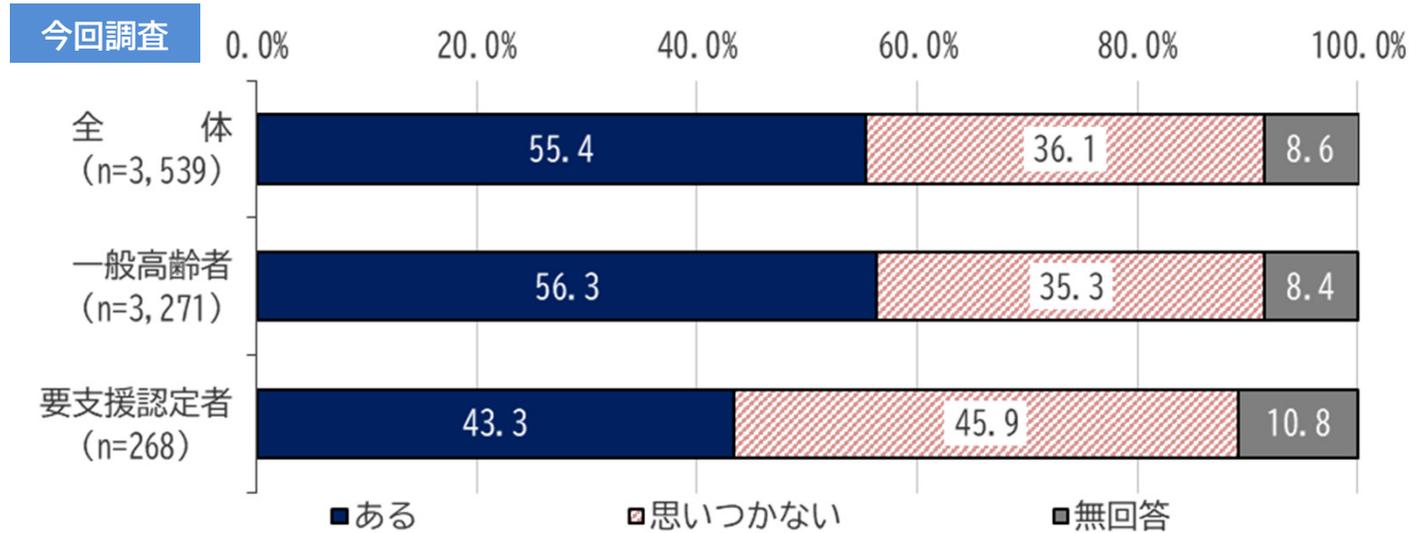
〔分析〕

- 健康への取組としては、食事や健康診断が多い
- 前回調査と比較して、同じ傾向にある



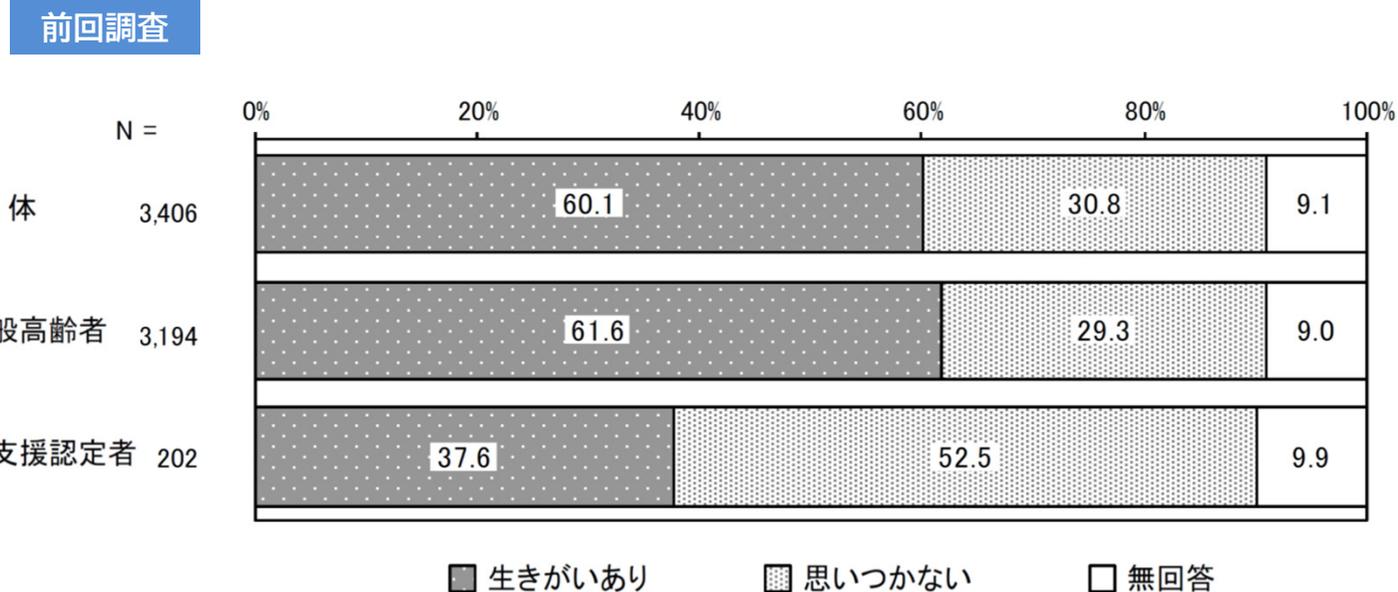
社会参加と生きがいつくり 1

(ニーズ) 問42 生きがいはありますか (一つを選択)



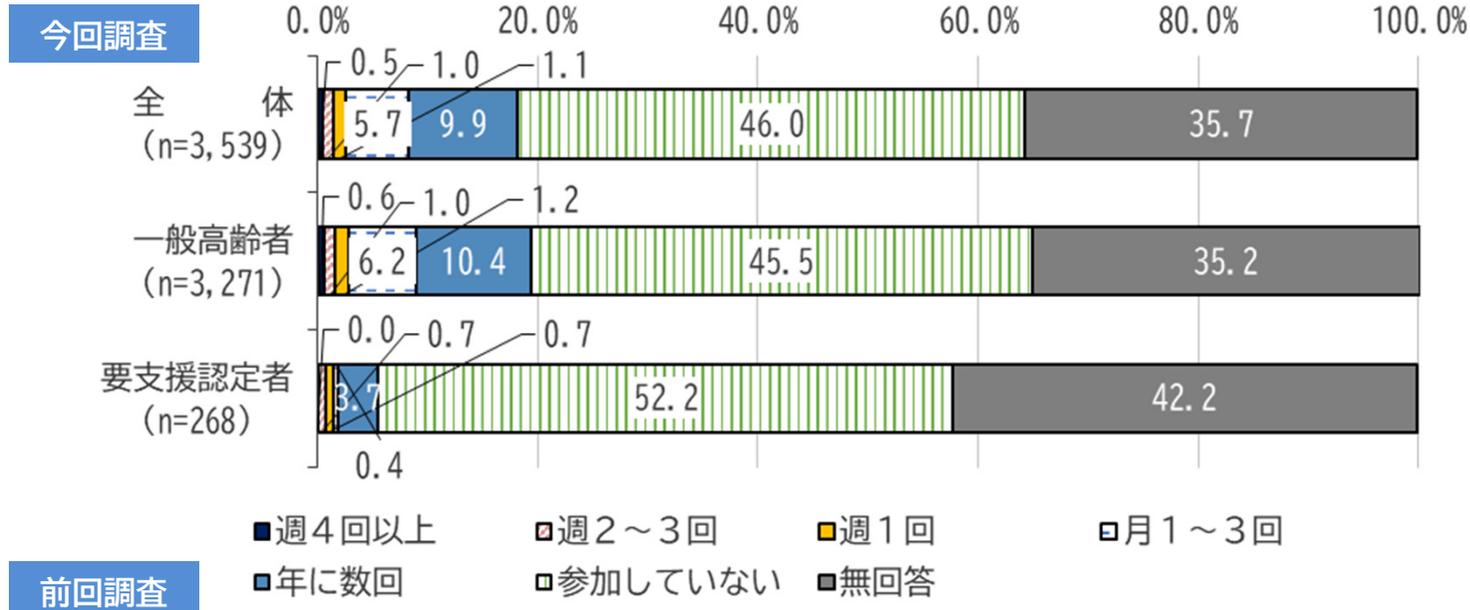
[分析]

□ 生きがいについて思いつかない人が3割強、要支援認定者に限定すると4割強



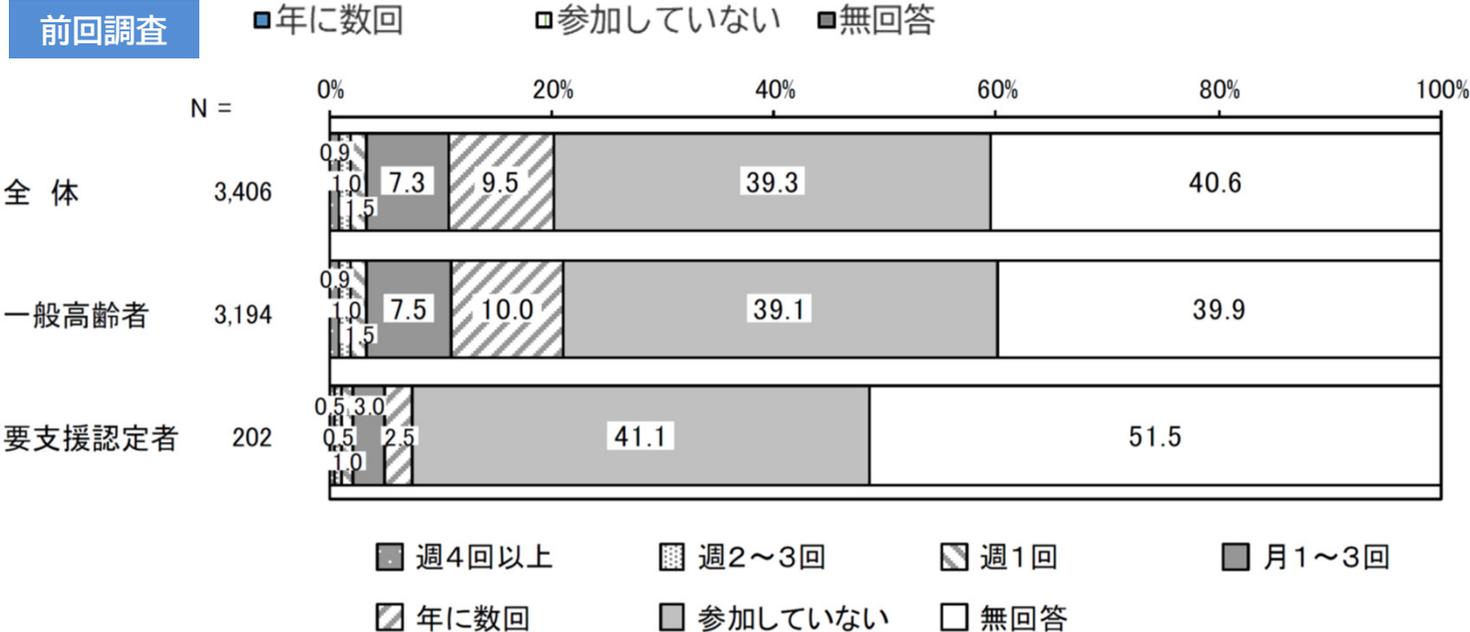
社会参加と生きがいづくり 2

(ニーズ) 問43 ①ボランティアのグループにどのくらいの頻度で参加していますか。



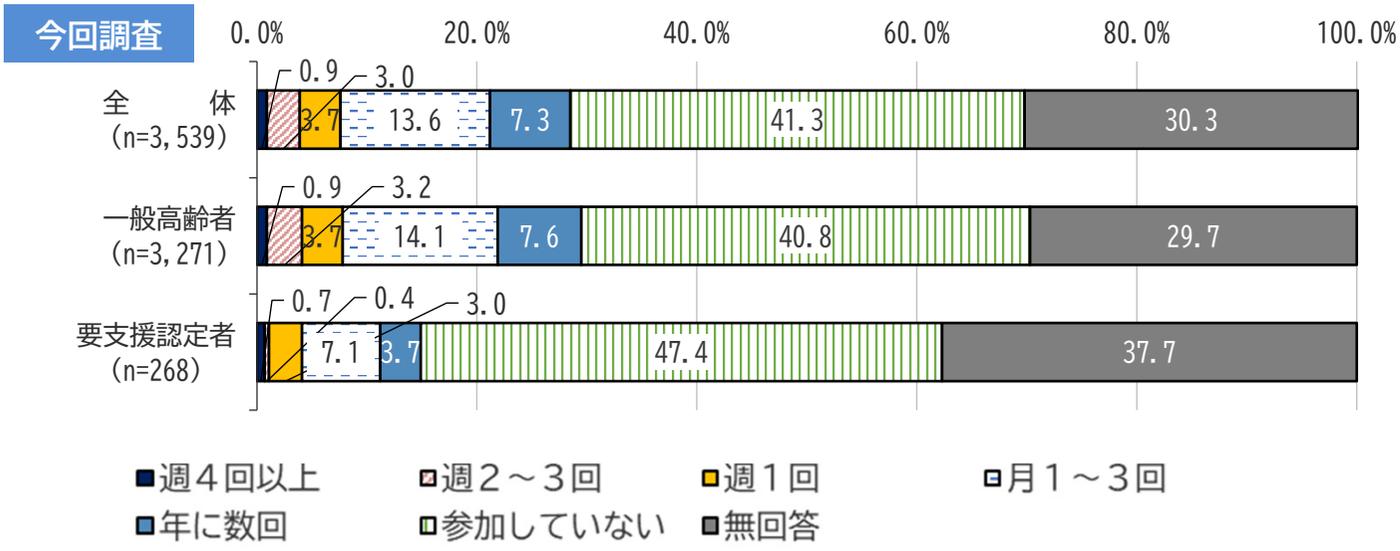
〔分析〕

□ ボランティアのグループの「参加していない」の割合が、前回調査と比較して高くなっている



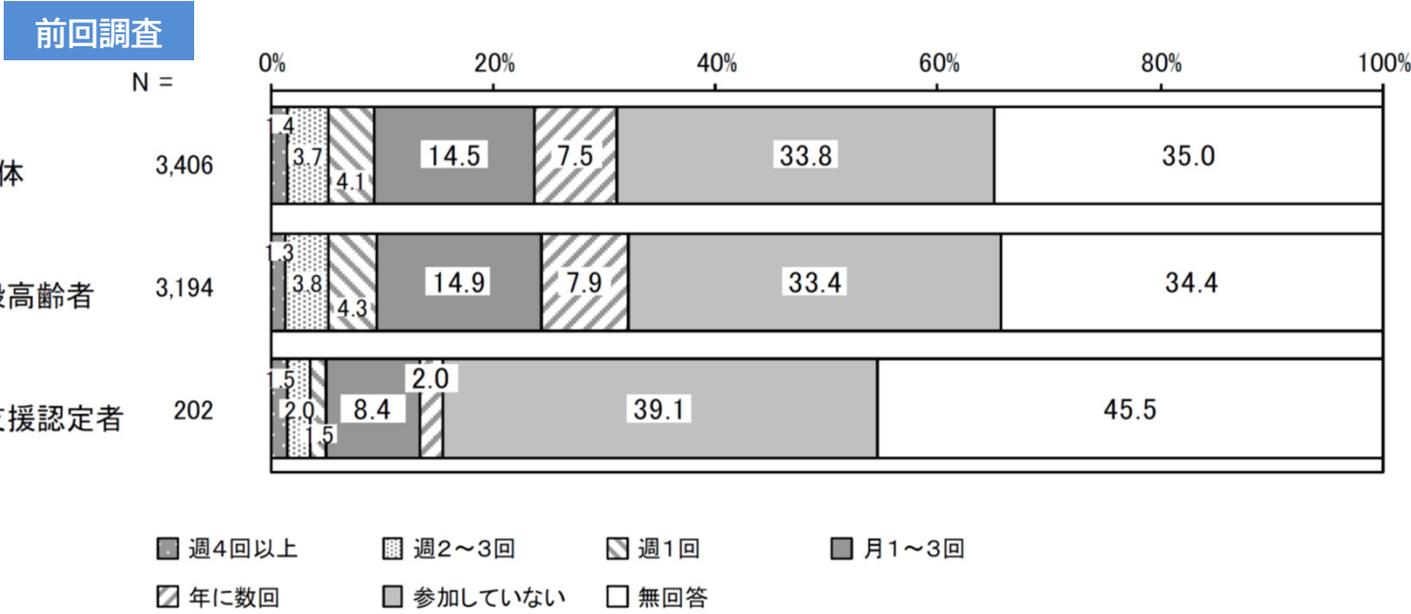
社会参加と生きがいづくり 3

(ニーズ) 問43 ③趣味関係のグループにどのくらいの頻度で参加していますか。



〔分析〕

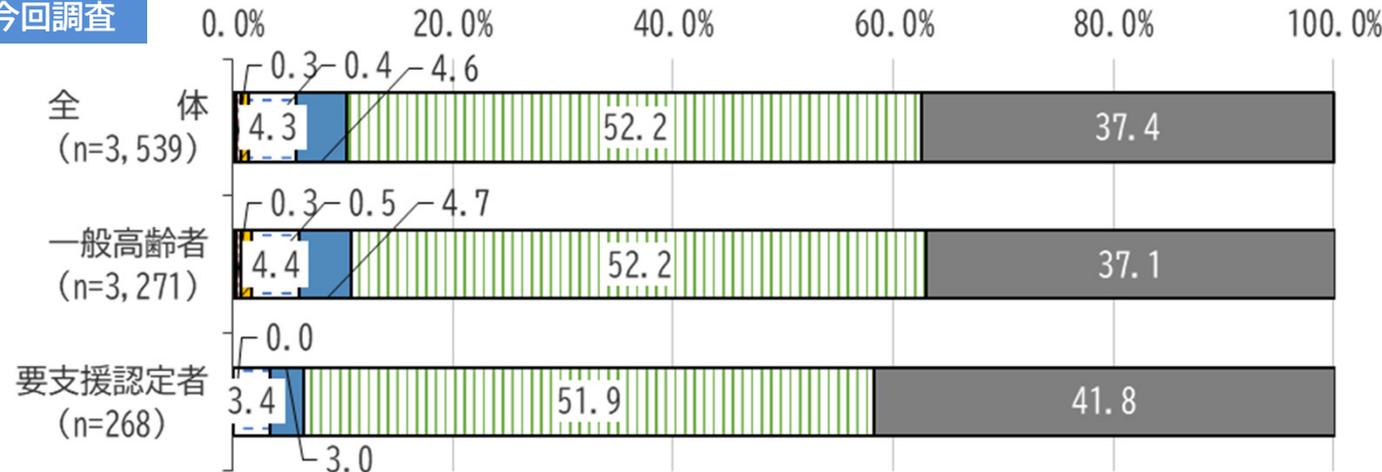
□ 趣味関係のグループの「参加していない」の割合が、前回調査と比較して高くなっている



社会参加と生きがいづくり 4

(ニーズ) 問43 ④学習・教養サークルにどのくらいの頻度で参加していますか

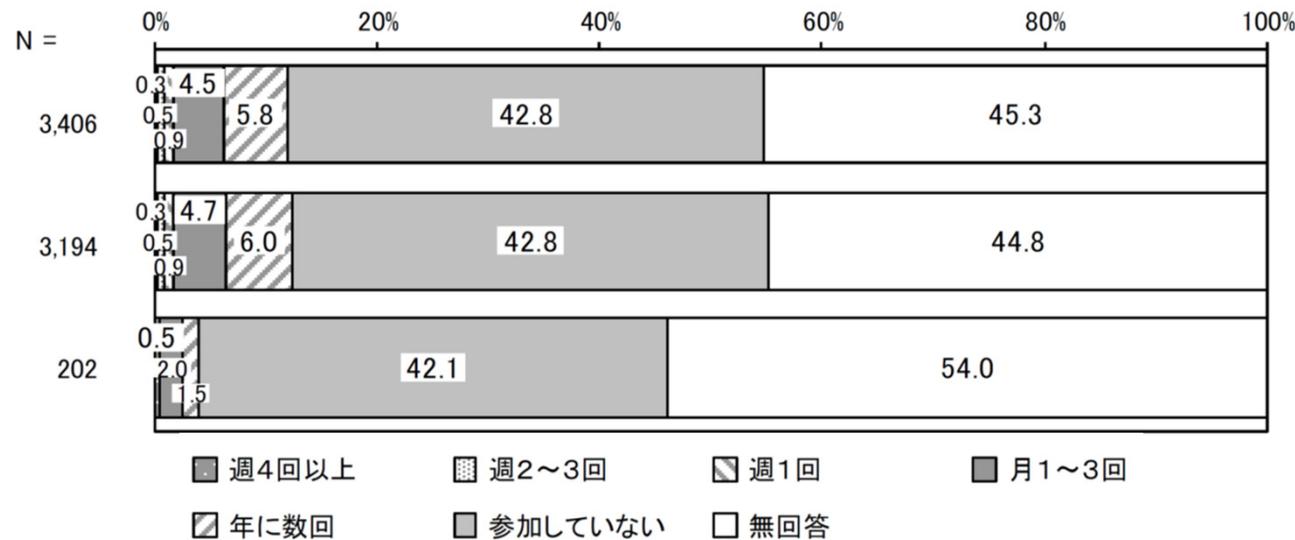
今回調査



〔分析〕

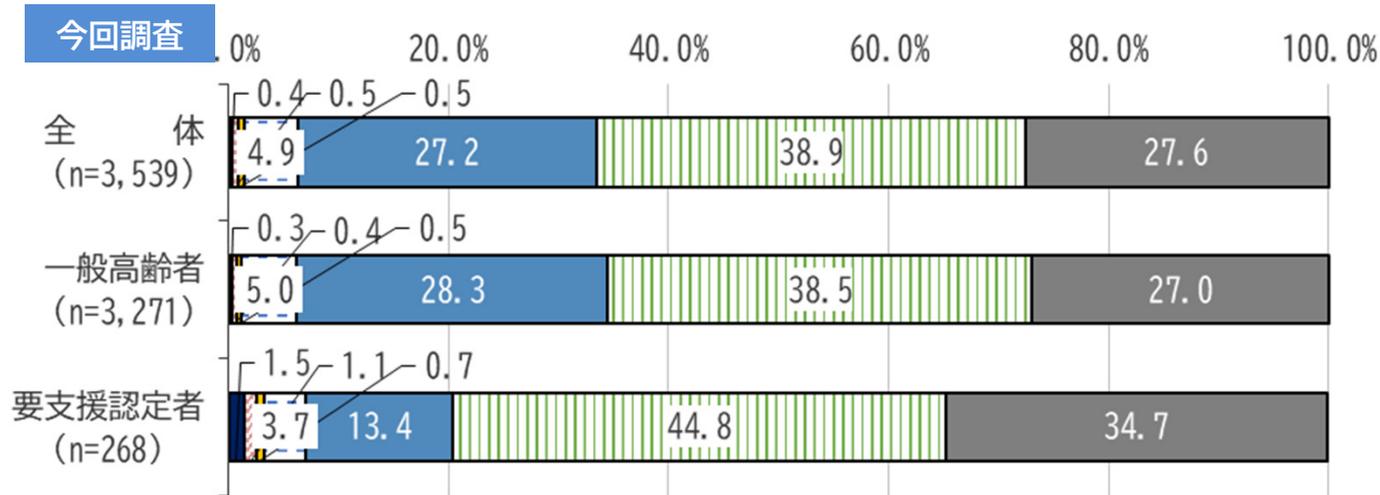
□ 学習・教養サークルの「参加していない」の割合が、前回調査と比較して高くなっている

前回調査



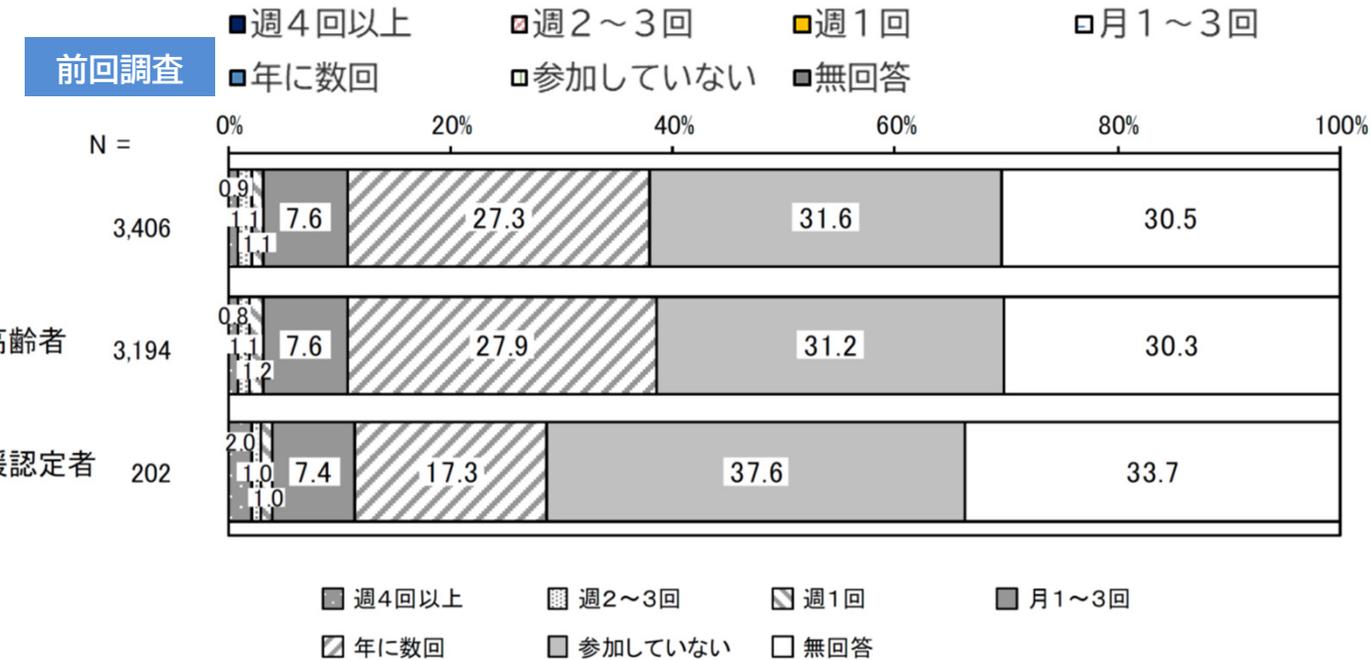
社会参加と生きがいづくり 5

(ニーズ) 問43 ⑥老人クラブにどのくらいの頻度で参加していますか。



〔分析〕

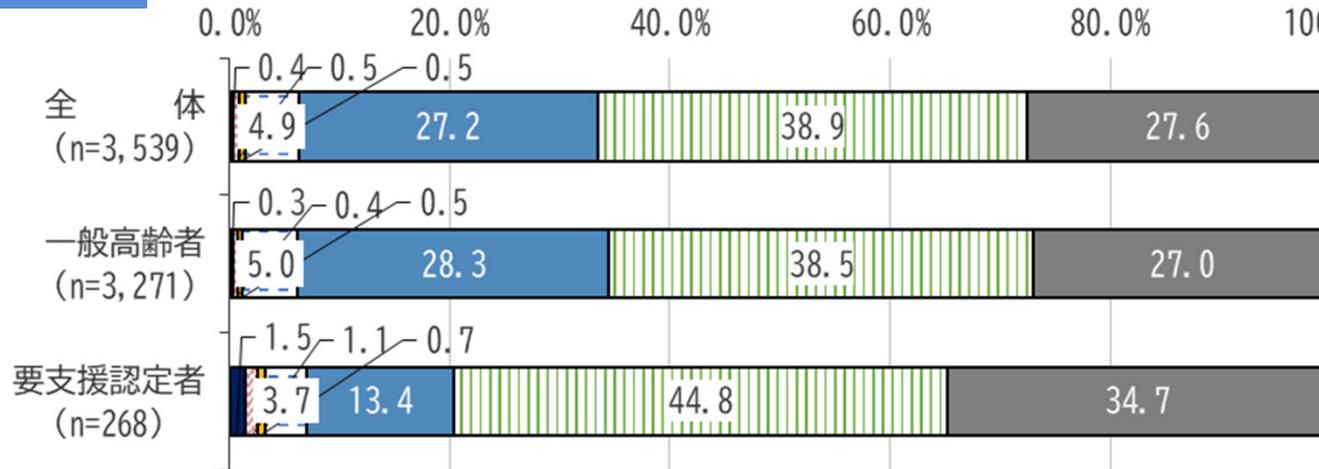
□ 老人クラブの「参加していない」の割合が、前回調査と比較して高くなっている



社会参加と生きがいづくり 6

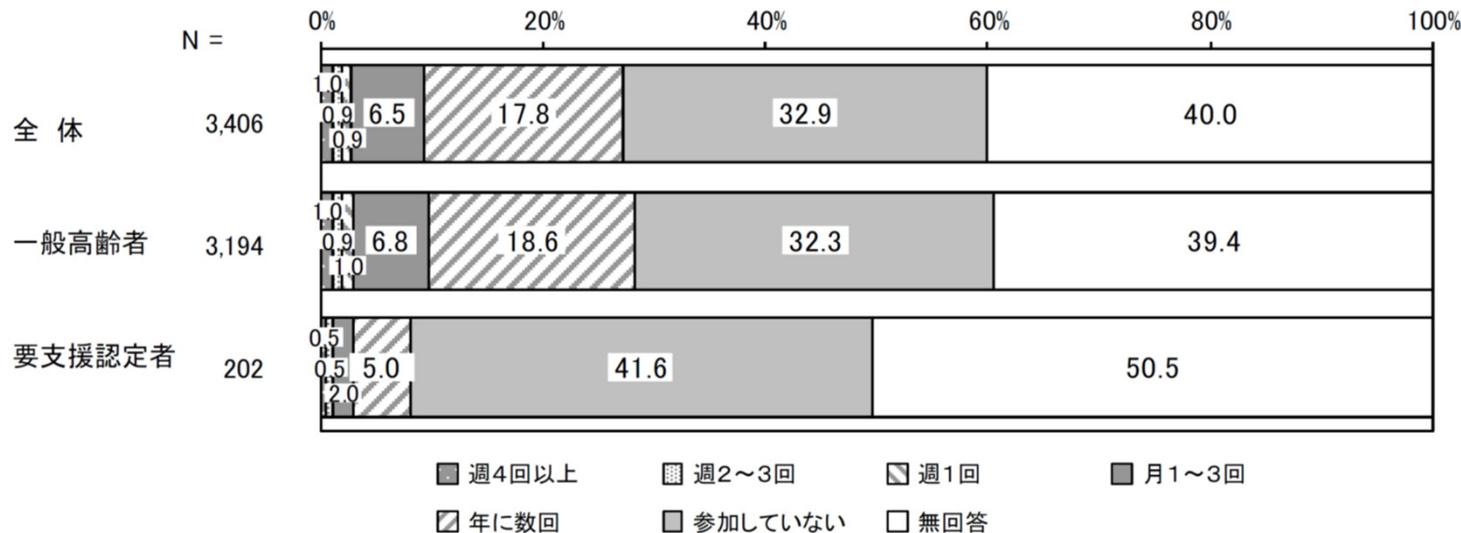
(ニーズ) 問43 ⑦町内会・自治会にどのくらいの頻度で参加していますか。

今回調査



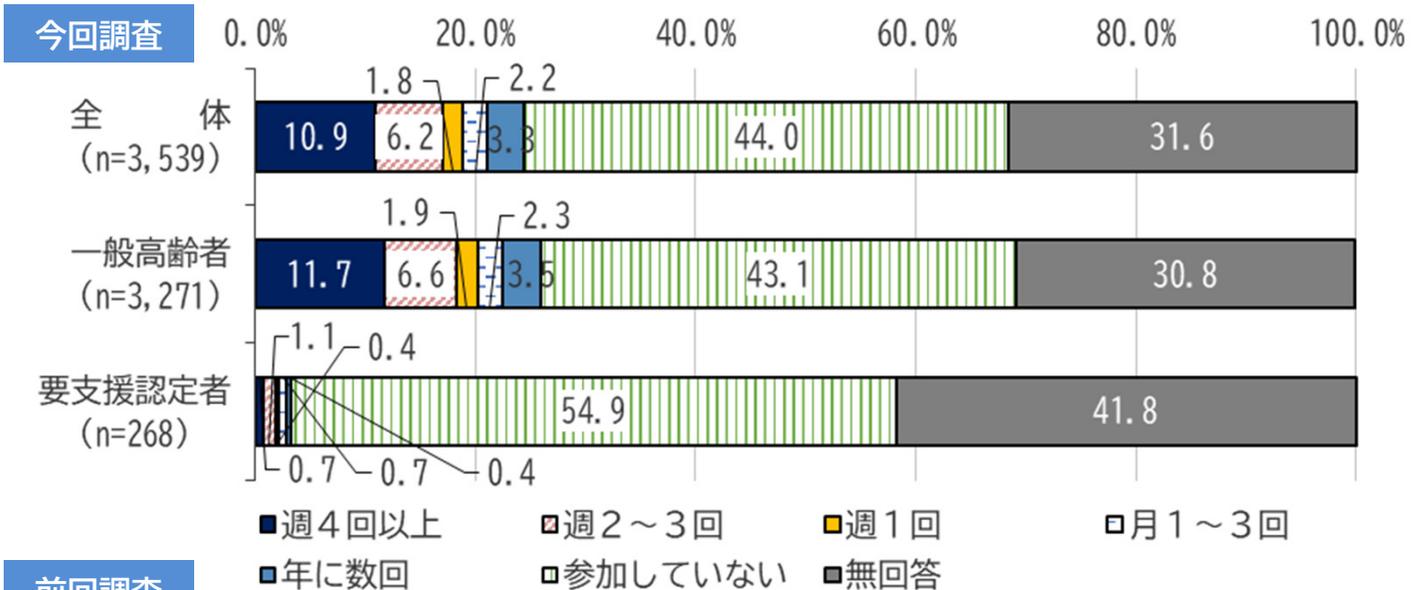
町内会・自治会の「参加していない」の割合が、前回調査と比較して高くなっている

前回調査



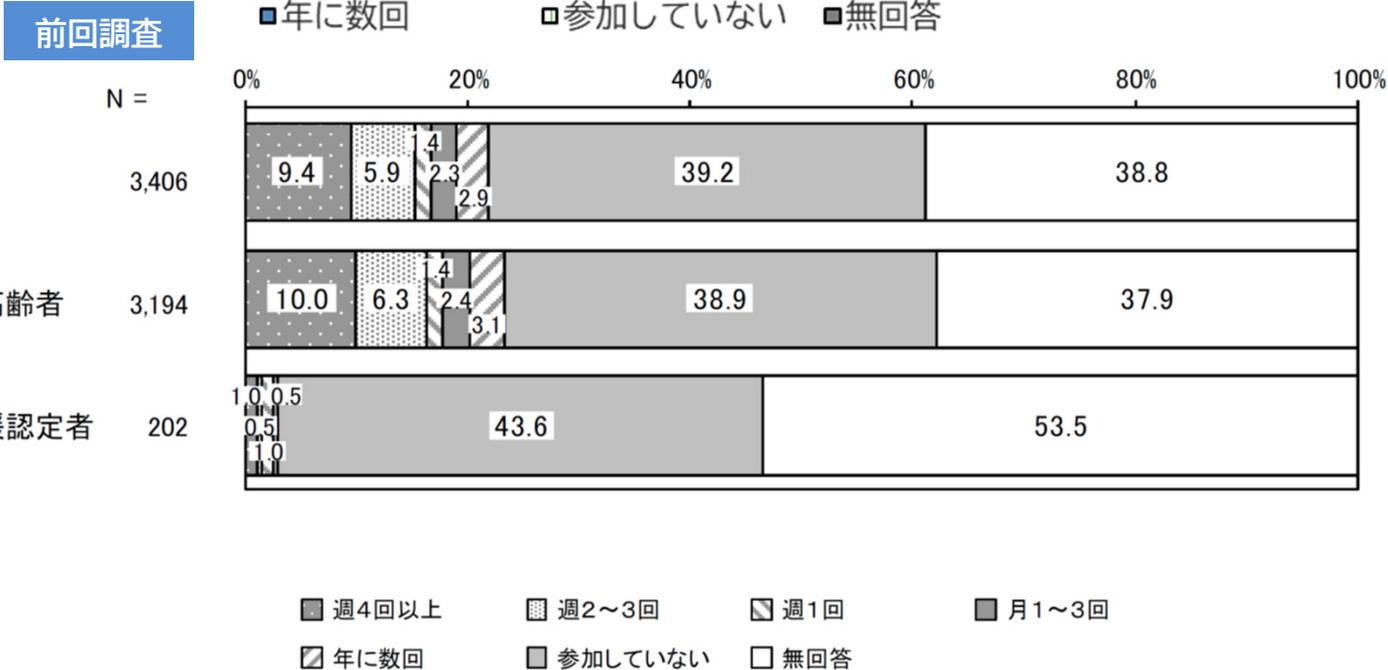
社会参加と生きがいづくり 7

(ニーズ) 問43 ⑧収入のある仕事にどのくらいの頻度で参加していますか。



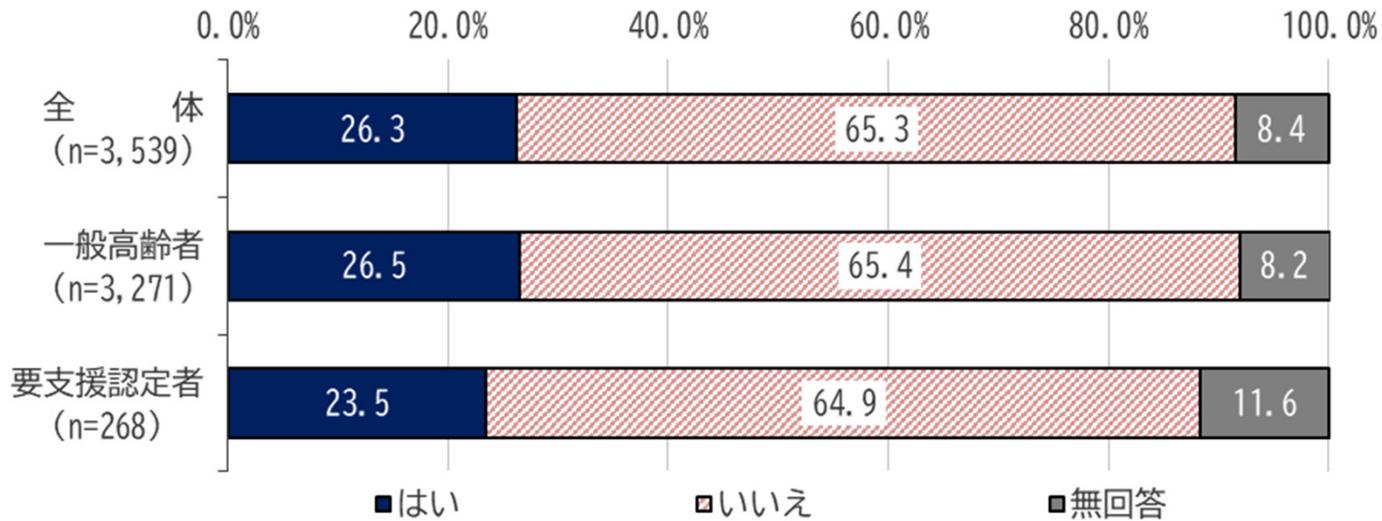
〔分析〕

□収入のある仕事の「参加していない」の割合が、前回調査と比較して高くなっている



認知症と相談窓口

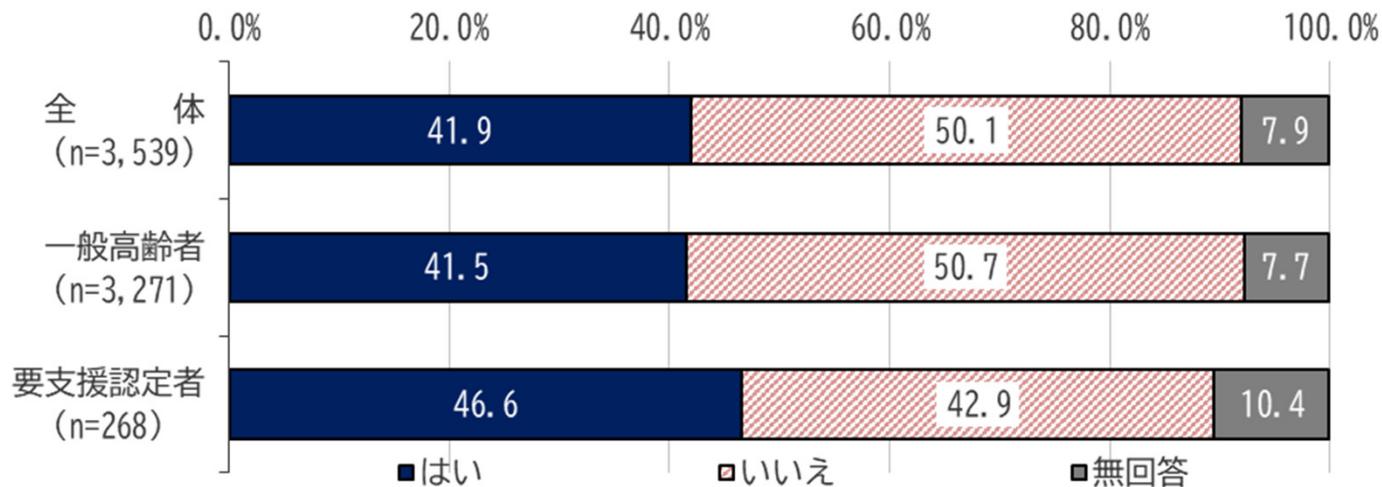
(ニーズ) 問72 認知症に関する相談窓口を知っていますか (一つを選択)



[分析]

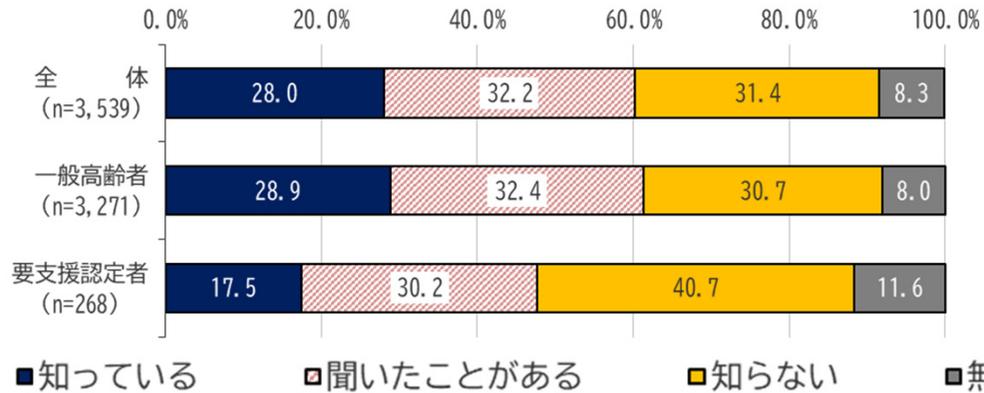
- 認知症に関する相談窓口を知っている割合は3割弱
- 認知症について、かかりつけ医や地域包括支援センターに相談できることを知っている割合は、4割強

(ニーズ) 問73 認知症の心配がある時、かかりつけ医や地域包括支援センター等に相談できることを知っていますか (一つを選択)



認知症を支援するしくみの周知度について

(ニーズ) 問74 「成年後見制度」を知っていますか(一つを選択)



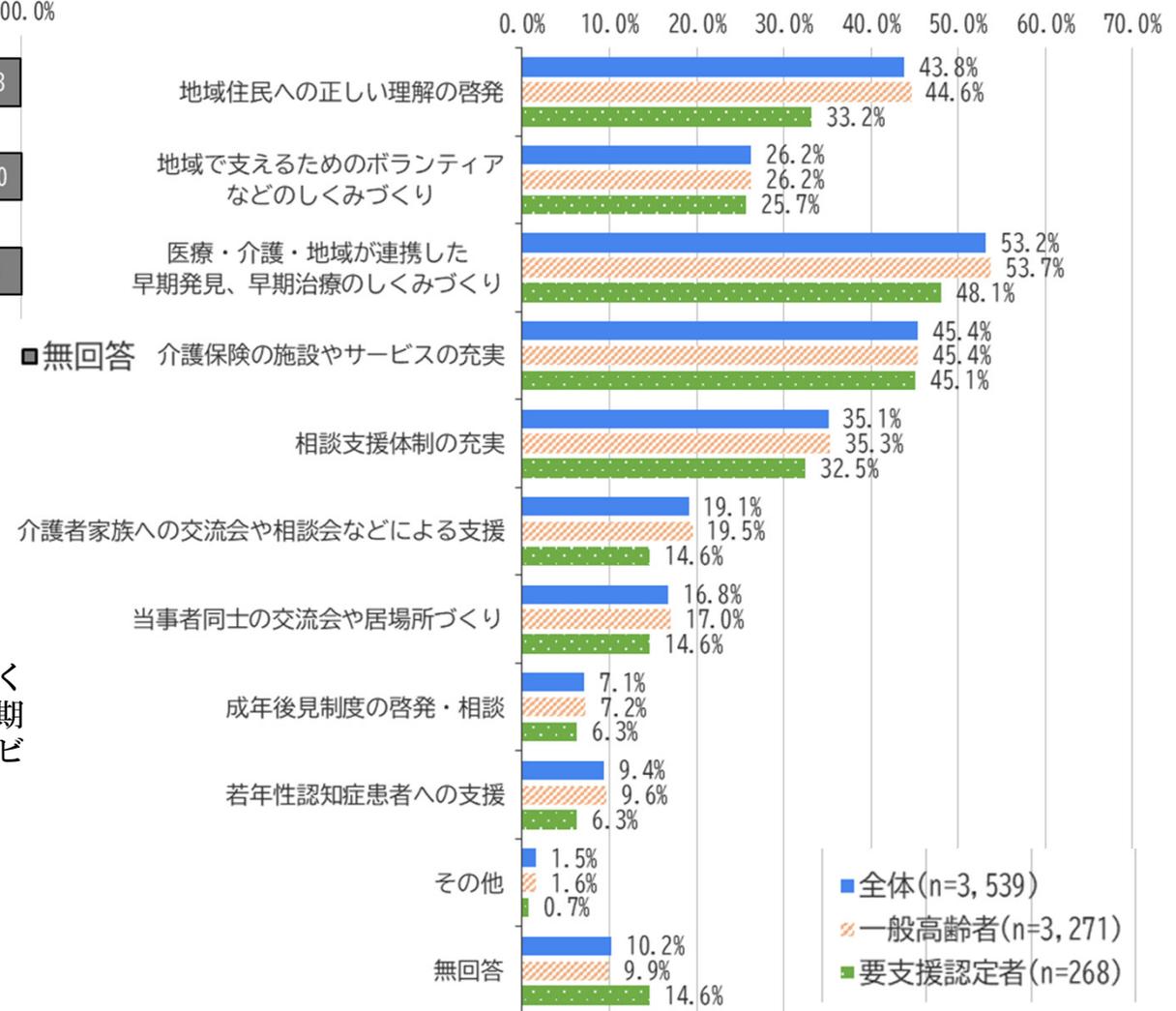
〔分析〕

- 成年後見制度について「知らない」人は3割強
- 認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために重要なことでは、「医療・介護・地域が連携した早期発見、早期治療のしくみづくり」「介護保険の施設やサービスの充実」をあげる回答が多い

〔考察〕

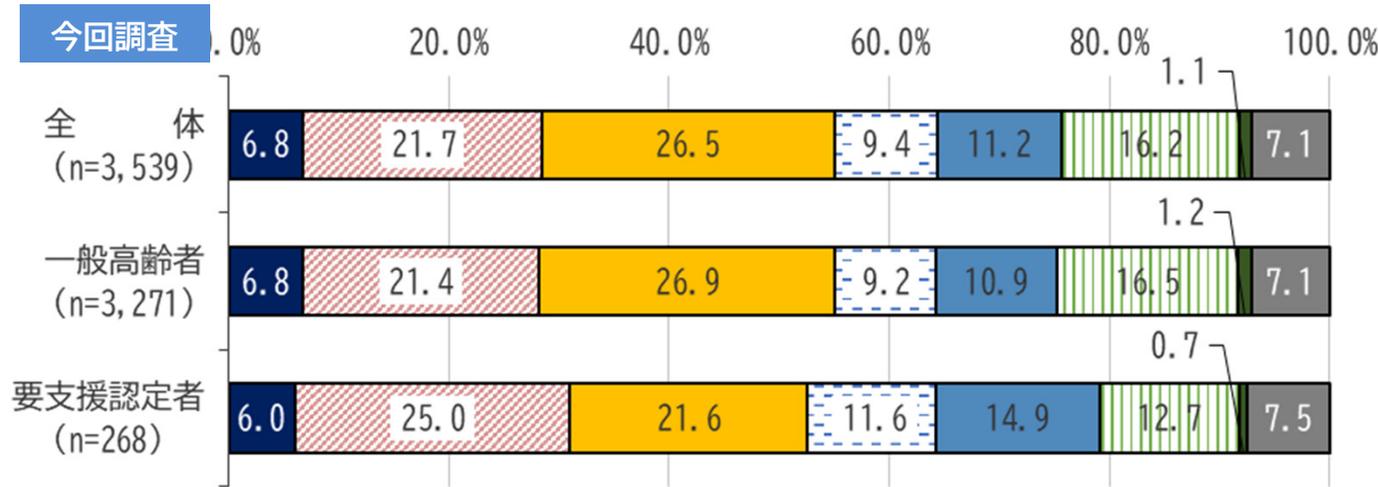
- 支援する制度の周知が必要

(ニーズ) 問75 認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか(いくつでも)



在宅介護を希望する割合

(ニーズ) 問68 今後、あなた自身に介護が必要になった場合、どのようにしたいですか (一つを選択)

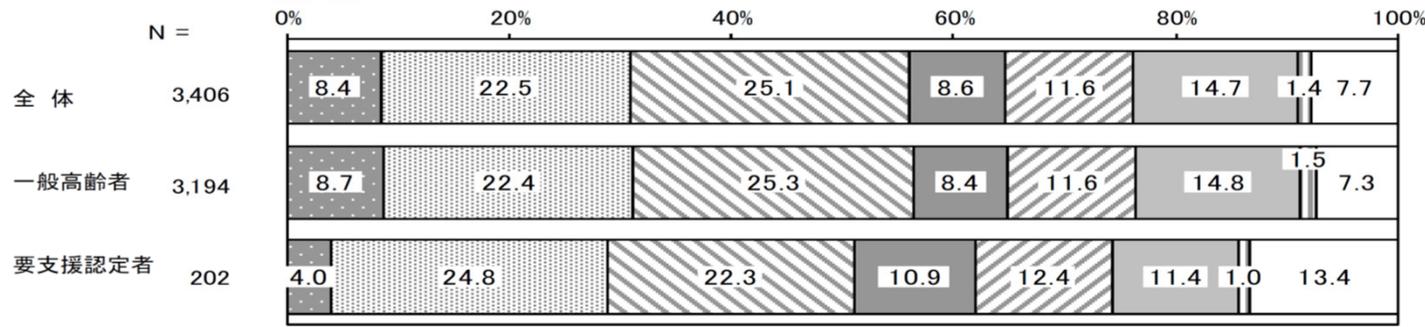


〔分析〕

□ 家族のみ、あるいはサービスを活用するなど何らかの形で自宅での介護を希望する人が多い

- 自宅で、家族だけの介護により暮らしたい
- 自宅で、家族の介護を中心に、介護保険サービス等を利用しながら暮らしたい
- 自宅で、家族の介護の負担を極力少なくし、介護保険サービス等を中心に暮らしたい
- 高齢者向けの住宅に入居して、介護保険サービス等を利用しながら暮らしたい
- 特別養護老人ホームやグループホームなど介護保険の施設に入所して暮らしたい
- わからない

前回調査



- 自宅で、家族だけの介護により暮らしたい
- 自宅で、家族の介護を中心に、介護保険サービス等を利用しながら暮らしたい
- 自宅で、家族の介護の負担を極力少なくし、介護保険サービス等を中心に暮らしたい
- 高齢者向けの住宅に入居して、介護保険サービス等を利用しながら暮らしたい
- 特別養護老人ホームやグループホームなど介護保険の施設に入所して暮らしたい
- わからない
- その他
- 無回答

在宅介護に必要な支援 1

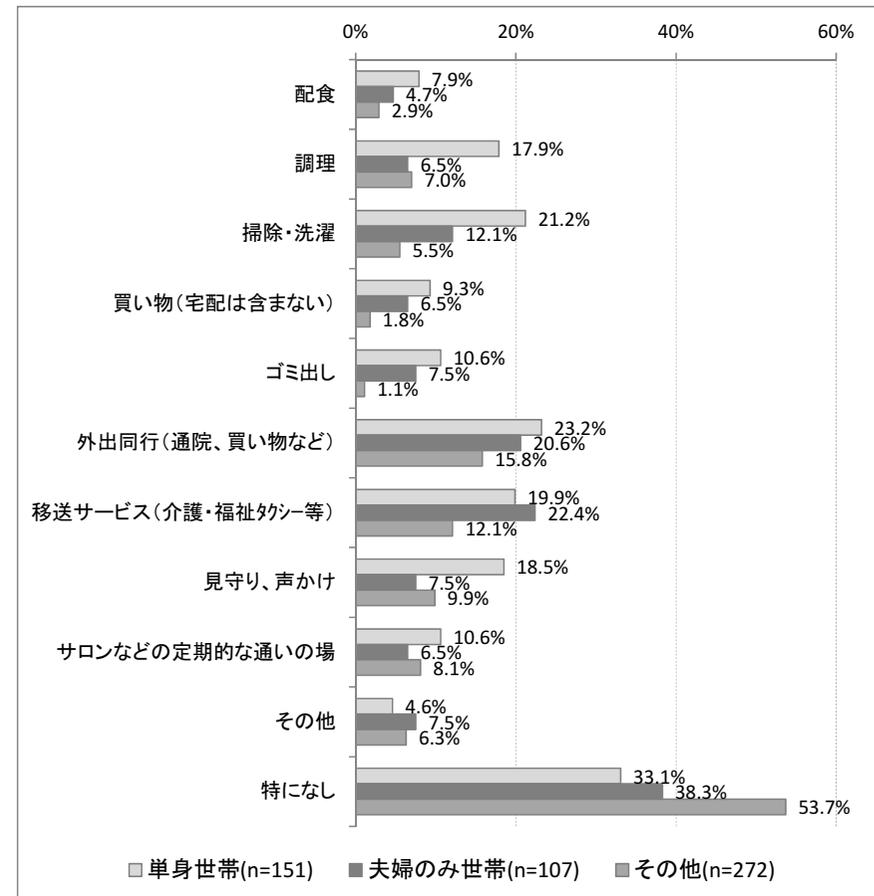
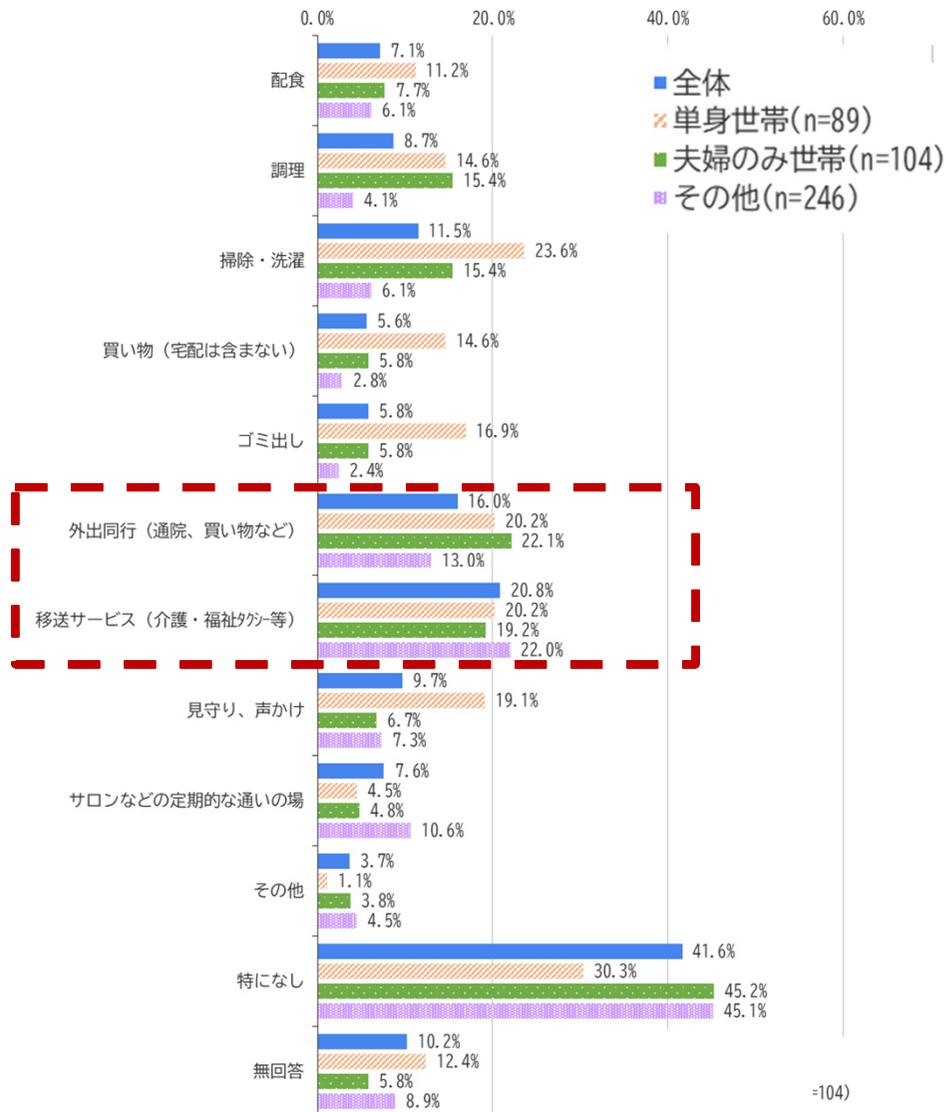
(在宅A) 問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）

〔分析〕

- 認定者では、在宅で介護を継続するために求められている支援は、外出同行や移送サービスなど、移動に関するものが上位を占める
- 一般高齢者や要支援認定者では、定期的な訪問診療・訪問看護などを求める声が多い

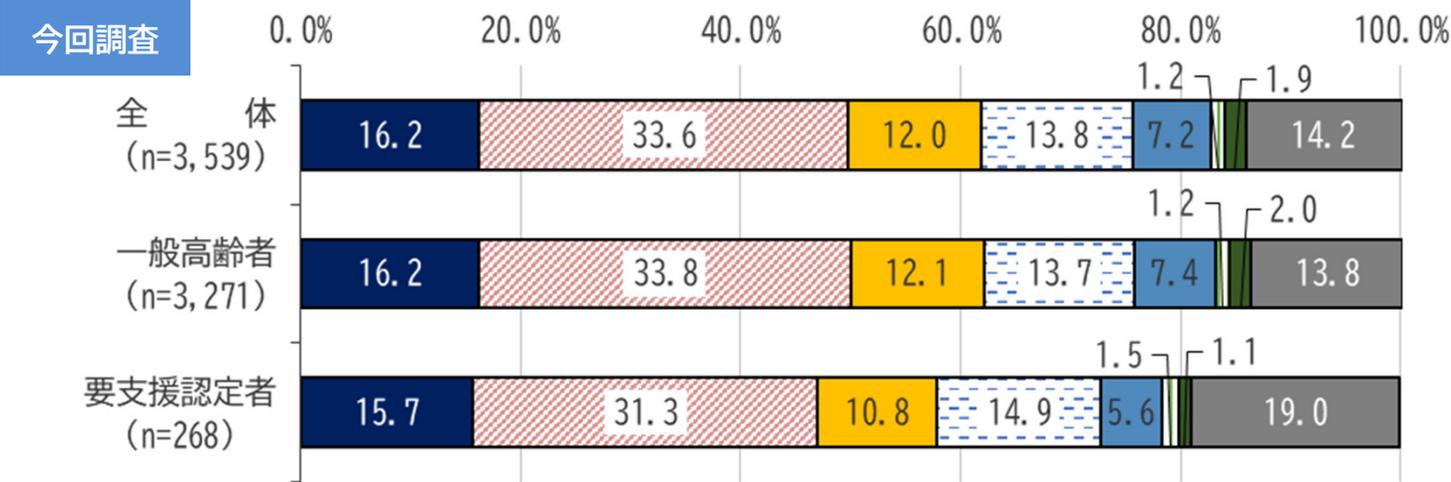
〔考察〕

- 移動を支援するサービスの充実が必要



在宅介護に必要な支援 2

(ニーズ) 問69 介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活をするための在宅医療や在宅介護が課題となっていますが、どのような整備が特に必要と思いますか（一つを選択）



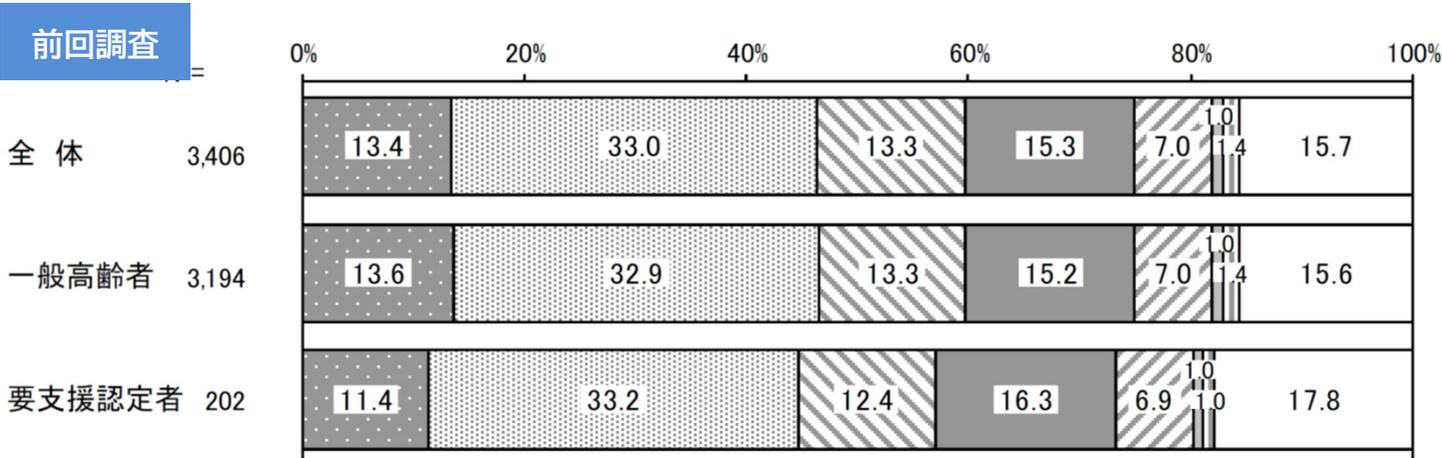
〔分析〕

□ 一般高齢者や要支援認定者では、定期的な訪問診療・訪問看護などを求める声が多い。前回調査と同じ傾向

〔考察〕

□ 定期的な訪問診療・訪問看護を受けられる体制づくりが引き続き必要
 □ 相談窓口の充実が必要

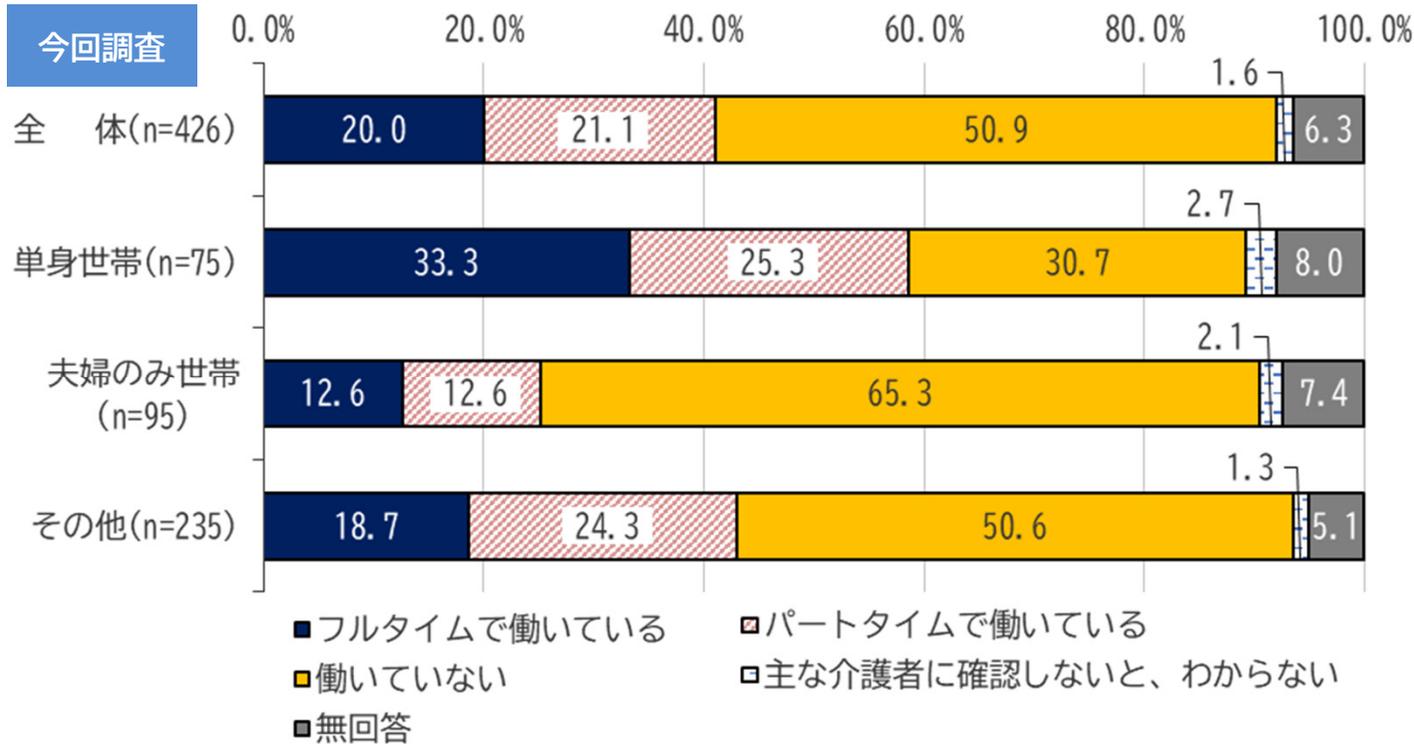
- 在宅介護や在宅医療の相談窓口の充実
- 定期的に訪問診療や訪問看護が受けられる体制
- 24時間対応の在宅医療体制
- 容態急変時や必要時の入院体制
- 医療・介護関係の連携強化
- 看取りについての相談窓口
- その他
- 無回答



- 在宅介護や在宅医療の相談窓口の充実
- 定期的に訪問診療や訪問看護が受けられる体制
- 24時間対応の在宅医療体制
- 容態急変時や必要時の入院体制
- 医療・介護関係機関の連携強化
- 看取りについての相談窓口
- その他
- 無回答

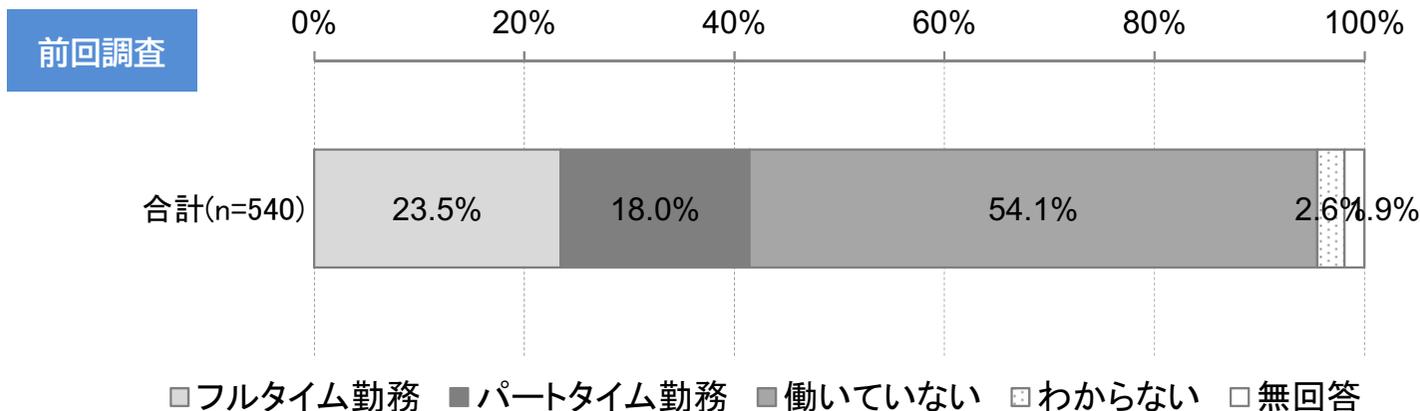
介護者について 1

(在宅B) 問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)



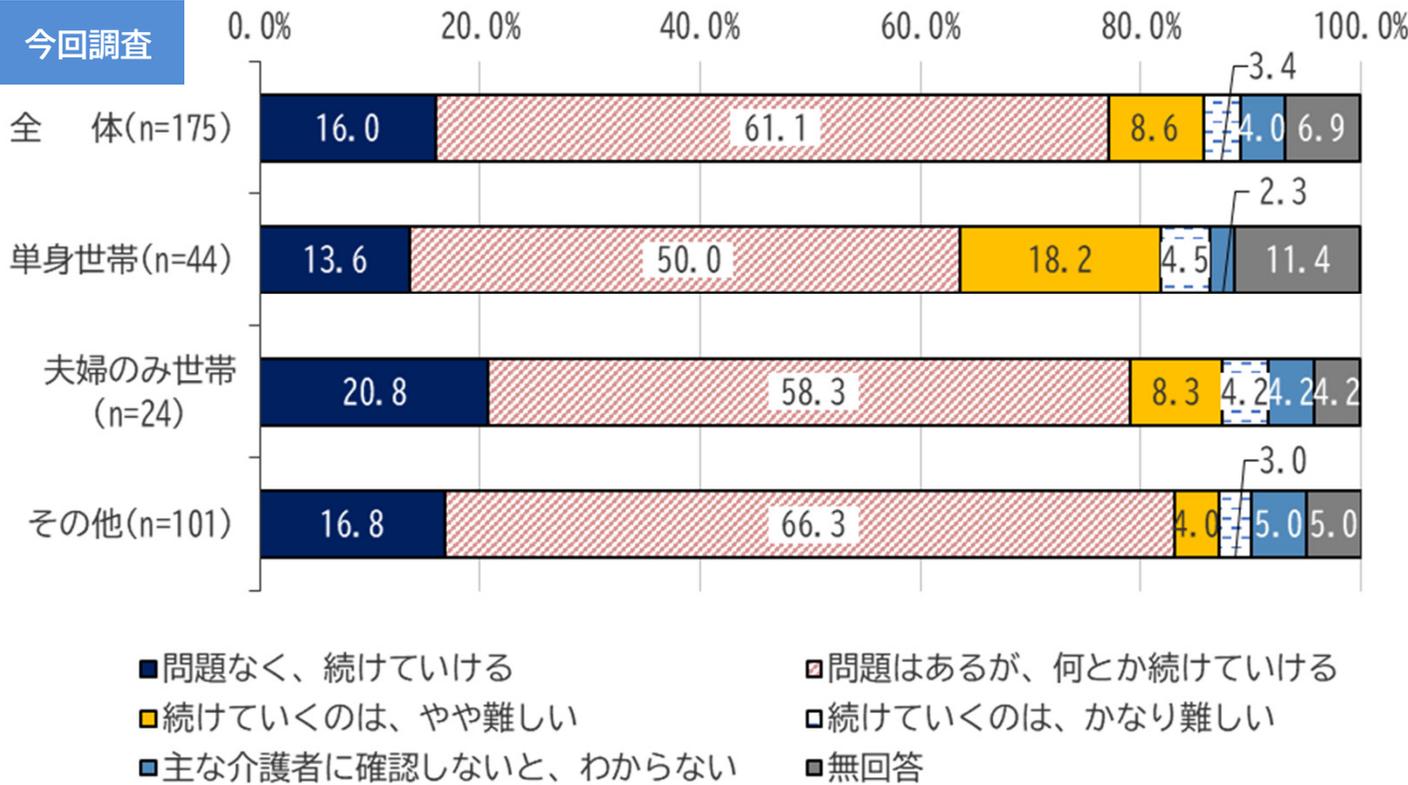
〔分析〕

□ 介護者の半数は働いていない。ただ「単身世帯」の場合、「働いていない」人は3割強となっている。前回調査と比較して、フルタイムが微減



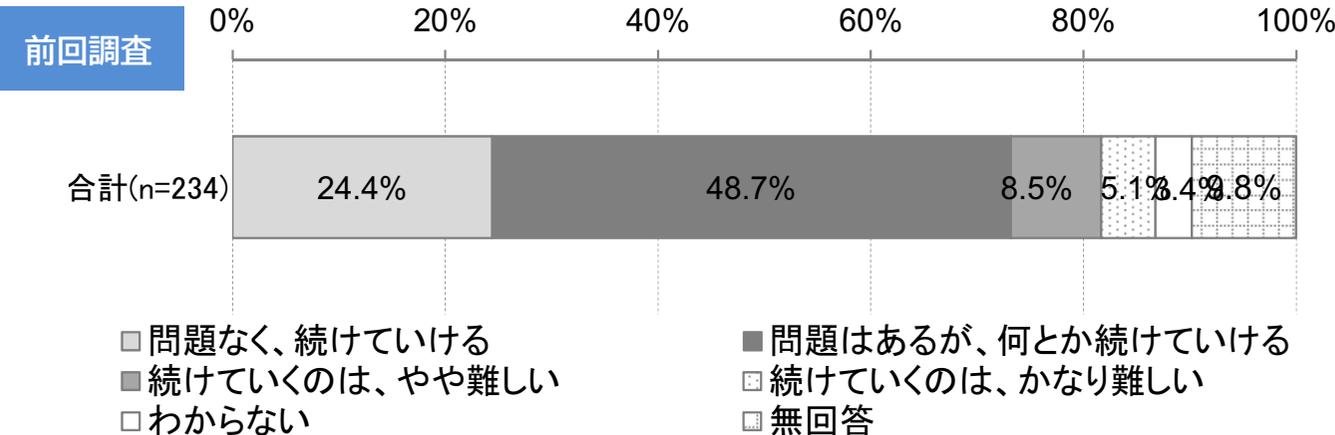
介護者について 2

(在宅B) 問4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）
 ※B票問1でフルタイム、パートタイムで働いていると回答した人のみ



〔分析〕

- 今後の介護の展望では、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合は、1割強。「単身世帯」では2割弱に上る
- 前回調査と比較して、「問題なく、続けていける」の割合が減少し、「問題はあるが、何とか続けていける」が増加している



現行計画
の骨子

みんなで創ろう！いつまでも元氣な笑顔が輝く支え合いと安心のまち

重点課題

- 1 高齢者の相談窓口の強化・充実
- 2 健康への意識の向上
- 3 高齢者の社会参加による生きがいづくり
- 4 認知症高齢者を見守る地域づくり
- 5 在宅介護を支える地域づくり

1

住み慣れた地域で暮らし続けるために～地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの深化・推進と生活支援の充実

- (1) 地域共生社会の推進、相談支援体制の充実
- (2) 医療計画との整合性の確保、医療と介護の連携体制の構築
- (3) 高齢者の権利を守る支援の充実
- (4) 地域ぐるみの高齢者支援の推進
- (5) 高齢者福祉サービスの充実
- (6) 住み良いまちづくりの推進
- (7) 安全・安心のまちづくりの推進

2

いきいきと活動するために～介護予防と生きがいづくり・社会参加の促進

- (1) 健康づくりと疾病予防の推進
- (2) 介護予防の推進
- (3) 就労・ボランティア活動の促進
- (4) 生きがい活動の推進

3

認知症の人を地域で支え合うために～認知症施策の推進

- (1) 地域における支援の充実
- (2) 家族に対する支援の充実
- (3) 認知症支援体制の構築

4

介護が必要となっても安心して暮らすために～介護保険事業の充実

- (1) 居宅サービスの充実
- (2) 施設・居住系サービスの充実
- (3) 市町村特別給付の実施
- (4) 利用者本位のサービス提供の推進
- (5) 介護者支援の充実
- (6) 介護人材の確保と資質の向上

■相談体制について
・家族や友人・知人以外で、何かあったときにあなたが相談する人がいないという回答が3割強である。
・在宅介護する上で「在宅介護や在宅医療の相談窓口の充実」が必要と考える人が一定数いる。

■健康への意識
・日ごろの生活で不安に思っていることの上位に自分及び家族の健康が上がっている。
・主観的健康観をみると、要支援認定者では「あまりよくない」「よくない」の割合が4割強だが、前回調査よりはやや減少している。

■高齢者の社会参加
・生きがいについて思いつかない人が3割強、要支援認定者に限定すると4割強である。
・ボランティアや趣味関係のグループ、老人会、町内会、自治会などの社会参加意向は前回調査よりも低くなっている。

■認知症高齢者を見守り
・認知症になっても地域で暮らしていくために必要なものとして、「医療・介護・地域が連携した早期発見、早期治療のしくみづくり」「介護保険の施設やサービスの充実」をあげる回答が多い。

■在宅介護を支える地域づくり
・自身が介護になった場合、自宅で介護サービスを活用しながら暮らしたい人が5割弱である。
・在宅介護で暮らしていく上で、買物や通院を支援する移動サービスの充実を求める声が多い。

■高齢者の権利について
・成年後見制度の認知度は3割弱である。一般の元気高齢者よりも要支援認定者の方が認知度が低い。

■高齢者福祉サービスの充実
・市が取り組むべき高齢者の施策として、「在宅の高齢者を支える福祉サービスの充実」をもとめる声が多。

■安全・安心のまちづくりの推進
・3割ほどの人が地震、水害などの自然災害にあうことを不安に思っている。

■健康づくりについて
・スポーツ関係のグループやクラブに参加していない人の割合が前回より増加している。
・日頃から食事や栄養の取り方に注意し、定期的に健康診断を受ける人が過半数である。

■介護予防について
・「ふれあいいきいきサロン」や「介護予防サロン」などに参加していない人は5割前後である。

■生きがいについて
・生きがいがない人は、全体で4割弱。要支援認定者のみだと5割弱である。

■地域における支援の充実について
・「ひとり歩き高齢者等見守り支援事業」について知っている人は1割強である。
・認知症に関して「地域住民への正しい理解の啓発」が必要と考える人は4割強である。

■認知症支援体制の構築について
・かかりつけ医や地域包括支援センター等に相談できることを知っている人は4割強である。
・認知症に関する相談窓口を知っている人は2割強である。

■介護者支援の充実について
・「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、「利用していない」人が6割強である。
・「外出同行」「移送サービス」の充実が必要との声が多い。
・介護保険サービスを利用していない人が3割である。
・仕事と介護の両立について「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合は1割強である。